

竹中コーポレートレポート2020

Corporate Report 2020



想いをかたちに 未来へつなぐ



サステナブル社会の実現を目指して
当社グループが推し進める事業と取り組みを、
コーポレートレポートやWEBで
ステークホルダーの皆様にお伝えします。

編集方針

「竹中コーポレートレポート2020」は、竹中グループのグループCSRビジョンを示すとともに、グループ事業全体の取り組みをわかりやすくお伝えするものです。竹中工務店の活動内容を中心に構成し、誌面の都合で掲載できないコンテンツや事例、データについては竹中工務店WEBサイトに掲載しています。

2014年より会社案内(事業概要紹介)とサステナビリティレポート(CSR活動報告)を統合し、中期経営計画や財務・非財務の主要データを盛り込み、グループ・グローバルな展開を行う当社の事業活動全体をステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的に発行しています。

報告対象

■ 報告対象期間

2019年1月～2019年12月
当該年以外の活動も一部掲載しています。

■ 報告対象範囲

竹中工務店の活動を中心にグループ会社の活動を含んだ内容としています。

■ 参考ガイドライン

GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード、環境省の「環境報告ガイドライン2018年版」及び日本規格協会発行の「日本語訳ISO26000社会的責任に関する手引」(第一版2010年11月1日)を参考にしました。

■ 発行

日本語2020年3月(次回発行予定2021年3月)
英語2020年5月(次回発行予定2021年5月)
なお、より多くの皆様にお読みいただけるよう、WEBサイトでも公開しています。

■ お問い合わせ先

広報部 03-6810-5140

企業WEBサイト
(日本語版/英語版)



<https://www.takenaka.co.jp>



- 建築作品
- ソリューション
- 会社情報
- CSR情報 など

企業パンフレット(日本語版/英語版)



コーポレートレポート
(日本語版/英語版)



建築作品集
(和・英併記)



Financial Report
(英語版)

当社の財務情報、非財務情報を統合しコンパクトにまとめました。
事業活動や成果(作品)などもより詳しく紹介しています。

※技術・ソリューションの個別パンフレットもあります。

財務・非財務の広範囲にわたる詳しい情報をタイムリーにカバーしています。

CONTENTS

4

竹中工務店について

- 4 グループ概要
- 5 竹中のこれまでと、これから
- 7 グループCSRビジョン
- 8 名誉会長・会長メッセージ
- 9 社長メッセージ

13

竹中工務店の重要課題

- 13 重要課題(マテリアリティ)を特定
- 15 サステナブル社会に向けた2020-2022年活動計画
- 17 サステナブル社会に向けた取り組み
 - 環境への取り組み
 - 社会課題解決に向けたまちづくり
 - 建設プロセス改革と多様な働き方の実現

23

事業活動

- 23 建築 — お客様の想いをかたちに
- 27 海外 — お客様のグローバルな事業活動をサポート
- 29 開発 — まちづくりで新たな価値を創造する
- 31 エンジニアリング — お客様の課題に最適なソリューションを
- 33 技術開発 — 技術で未来を拓く
- 34 グループ会社 — 国内主要グループ会社の事業活動

35

CSR/共通価値課題への取り組み

- 35 CSR活動報告—2019年実績
- 37 持続可能なまちづくり・社会システムの構築
 - 持続可能な生産活動の推進と基盤整備
 - 地球環境・生物多様性への対応
 - 社会貢献活動の推進
 - 技術革新による産業と社会基盤の構築
- 43 持続可能な成長
 - 健やかで働きがいのある職場環境の実現
 - ダイバーシティ(多様性)の促進
- 44 公正な企業活動
- 46 コーポレート・ガバナンス
- 47 第三者からの提言
- 48 会社概要

49

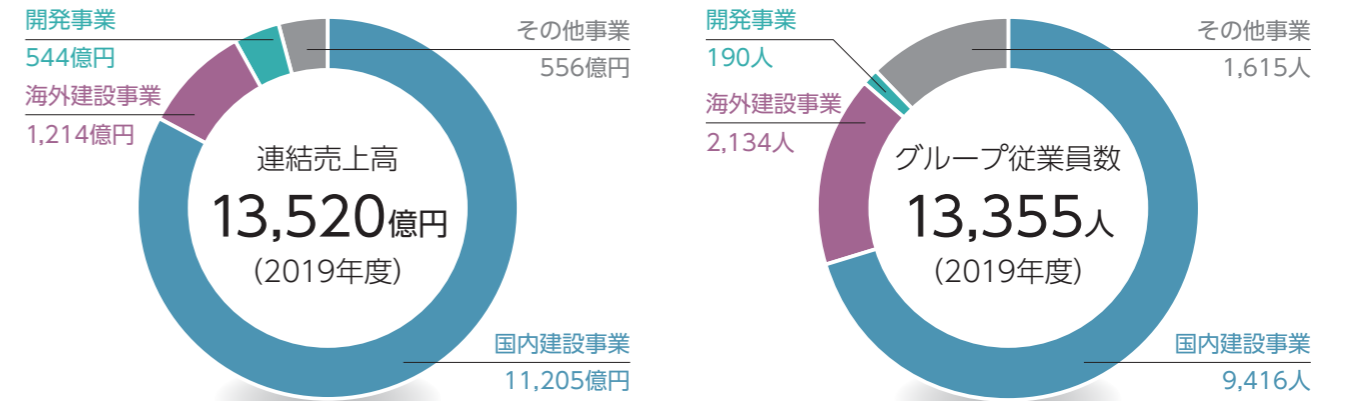
財務・非財務ハイライト



グループ概要

グループ全体で「まちづくりの全てのステージ」でお客様の期待に応えます。

竹中グループの事業規模



竹中グループ主要各社の主な事業領域



竹中の「これまで」

竹中工務店は1610年(慶長15年)の創業以来、建築を専業とし、ランドマークとなる数多くの建築物を手掛け、社会発展の一翼を担ってきました。建築とは、生命や財産を守る器であると同時に社会の資産であり、その時代の文化を後世に伝え継ぐものです。

そうした仕事に携わる誇りを込め、私たちは手掛けた建築物を「作品」と呼んでいます。私たちは日本の社会、経済、文化に深くかかわるようなビッグプロジェクトに参画し、数多くの建築やエンジニアリング、技術開発を世に送り出してきました。お客様第一主義を貫き、建築の専門家として高い技術力を保持していくという宮大工の棟梁であった初代 竹中藤兵衛正高から受け継がれた精神は、様々な「作品」となって、日本国内のみならず海外へと広がっています。

1610

1610

初代 竹中藤兵衛正高 名古屋で創業。神社仏閣の造営を業とする。



1874

維新後、次第に洋風建築を手掛け、名古屋鎮台兵舎竣工。

1884

三井銀行名古屋出張店竣工。

1897

三井名古屋製糸所竣工。

1899

14代 竹中藤右衛門が神戸に進出、創立第1年とする。

1900

三井銀行神戸小野浜倉庫竣工。



1901

1909

合名会社 竹中工務店設立。神戸を本店に名古屋を支店とする。

1912

商店建築では日本初の鉄筋コンクリート造の高島屋京都店竣工。



1916

鉄骨鉄筋コンクリート造の大阪朝日新聞本社竣工。

1934

明治生命館(東京・丸の内)竣工。

1937

株式会社 竹中工務店設立。資本金150万円。



1941

1960

TAKENAKA & ASSOCIATES INC. をサンフランシスコに設立、海外事業を本格化。

1941

株式会社 竹中土木設立。

1957

南極観測用施設製作。竹中式潜函工法特許を取得。

1958

高さ333mの東京タワー竣工。



1961

1973

ヨーロッパ竹中設立、欧州へ進出。

1974

タイ竹中、インドネシア竹中、シンガポール事務所設立、東南アジアへ進出。



1978 西ドイツ

日独センター竣工。

1963

国立劇場の設計競技において1等に入選。



1969

株式会社 アサヒ ファシリティズ設立、ビル管理事業、保険事業に進出。

1979

デミング賞実施賞受賞。竹中工務店を含むASTMグループが提案した芦屋浜シーサイドタウン竣工。



竹中の「これから」

棟梁精神や作品主義、設計施工一貫方式を貫きつつも、時代が求めるサービスやソリューションを提供していく中で、私たちの手掛ける「作品」は建築の枠を超えて、「まちづくり」へと広がっています。私たちはこれからも、長期的視点に立ち、あらゆる人にとっての「最良」を追求することで、社会の信頼に応え、豊かな「まちづくり」に貢献していきます。

1981

1981 シンガポール

チャンギ国際空港ターミナル竣工。



1990

マレーシア竹中設立。

1983 東京

大手センタービル竣工、開業。

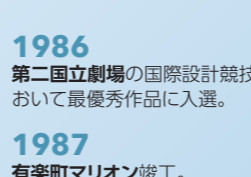


1987 サンフランシスコ

ホテル日航サンフランシスコ竣工、開業。

1990 大阪

クリスタルタワー竣工、開業。



1986

第二国立劇場の国際設計競技において最優秀作品に入選。

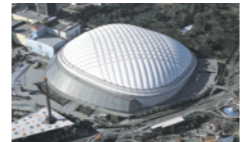
1987

有楽町マリオン竣工。



1988

竹中錬一会长がデミング賞本賞を受賞。日本初の空気膜構造による多目的スタジアム・東京ドーム竣工。



1991

1993

竹中土木インドネシア設立。



1996 タイ

アユタヤ銀行本社竣工。

1991 ハワイ

グランドハイアットカウアイリゾート&スパ竣工、開業。



1992

日本品質管理賞受賞。

1993

日本初の屋根開閉式多目的スタジアム・福岡PayPayドーム竣工。



1997

ナゴヤドーム竣工。

2001

2001

アメリカ竹中設立。

2003

中国竹中設立。

2003 ドイツ

現代自動車欧州本社竣工。



2010

インド竹中設立。

2001

大分スポーツ公園 大分銀行ドーム、札幌ドーム「Hiroba」竣工。

2006

世界一の高さの超高層免震マンションシティタワー西梅田竣工。

2007

中部地方一の高さを誇るミッドランドスクエア竣工。

東京都心の大型複合施設東京ミッドタウン、新丸の内ビルディング竣工。



2008

世界初の3棟連結超高層集合住宅アイランドタワースカイクラブ竣工。

2009

三菱一号館の復元及び丸の内パークビルディング竣工。



2011

2017

ベトナム竹中設立。

2017 シンガポール

東南アジアのハブ空港として、人と経済の流れを支えるチャンギ国際空港第4ターミナルビル竣工。



2017 インドネシア

LEEDプラチナ認証取得の優れた環境性能をもつパシフィックセンチュリー プレイス ジャカルタ竣工。



2019 京都

京都東山計画(山荘 京大和・パーク ハイアット 京都)開業。



2013

日本一の高さを誇るあべのハルカス竣工。

2014

日本建築学会賞(作品)を明治安田生命新東陽町ビルで受賞。



2017

再開発プロジェクト「ささしまライブ24」の中核となる複合施設グローバルゲート開業。



2019

スポーツイベント会場となる有明アリーナ竣工。



海外
→ P27

開発
→ P29

建築
→ P23

竹中工務店について

竹中工務店の重要課題

事業活動

CSR/共通価値の創出への取り組み

財務・非財務ハイライト

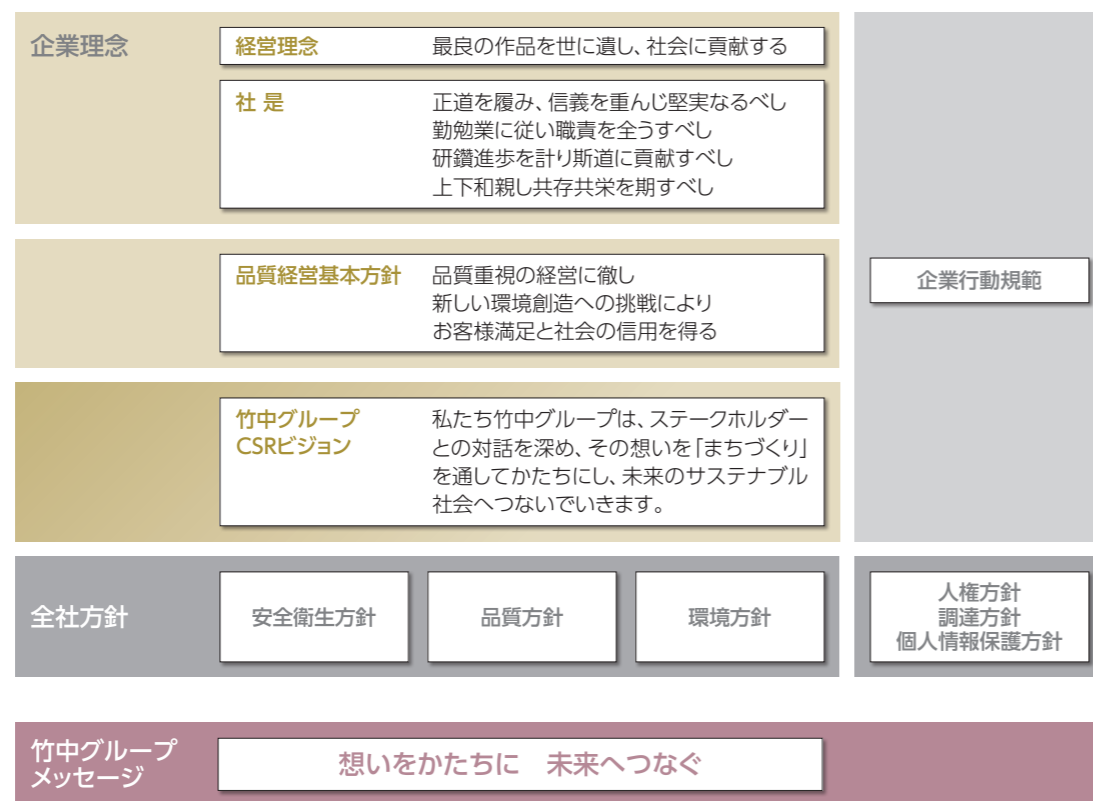
想いをかたちに 未来へつなぐ

当社は「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」ことを使命としてきました。そのために、社是を基本姿勢とし、手掛ける建築物の一つひとつを丹精込めてつくってきました。そして、お客様満足や社会の信用を得て企業の社会的価値を高める「品質経営」を継続しています。

更に、私たちを取り巻くステークホルダーが多様化する中で、建築に求められる機能や価値も変化してきており、これまで以上に社会と価値観を共有する企業活動が求められています。また、社会全体を見ても、「地球温暖化・気候変動」「安全・安心の確保」「社会インフラの老朽化」「少子高齢化」など多くの課題を抱えています。これらの問題は未来の社会に大きな

影響を及ぼす可能性があり、企業が果たす社会的責任は一層重要性を増しています。

こうした中で、当社はグループの力を結集し、社会そしてステークホルダーとの対話を深め、社会の課題を解決してサステナブル社会を実現することを示した「竹中グループCSRビジョン」と、当ビジョンを含む企業理念、品質経営基本方針の考え方を表現した「竹中グループメッセージ」を定めています。当社の原点である企業理念を一人ひとりが胸に刻み「品質経営」を推進するとともに、CSRの行動指針である企業行動規範を実践することで、このビジョンを実現していきます。



竹中グループCSRビジョン、竹中グループメッセージに込めた想い

私たちは、サステナブルな社会の実現に向け、「地球環境」「地域社会」「お客様」「従業員」「協会社」などのステークホルダーの期待に応えるとともに、その人々が集い、作用し合う「まち」が、今も未来も豊かで、安全で、優しいものでなければならないと考えています。そのために、ステーク

ホルダーとの対話をより一層深めていきます。そして、その「想い」を建築、土木、不動産・開発、ファシリティマネジメント、リニューアルといった当社グループの事業力を組み合わせた新たな価値をもつ「まちづくり」を通してかたちにし、未来のサステナブル社会を実現していきます。

サステナブル社会の実現に向けて

私たちは「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念のもと、創立以来、お客様の期待に応える建築を提供してきました。

企業が社会において担うべき役割は、時代とともに変化しています。世界がいま直面する、気候変動や人口増加をはじめとする地球規模の幾多の課題についても、その解決に貢献することが企業に求められています。

私たちは時代の変化にいつも敏感でありたいと考えています。そのために絶えず人々との対話を重ね、技術の研鑽を続けることで、時代が求める最良のソリューションを提供していきます。そして人々が安全に安心して暮らすための「まちづくり」にグループの総力で貢献することによって、サステナブル社会を実現し、地球の未来につないでいきたいと思いを。

2020年3月



取締役名誉会長

竹中統一

取締役会長

宮下正裕



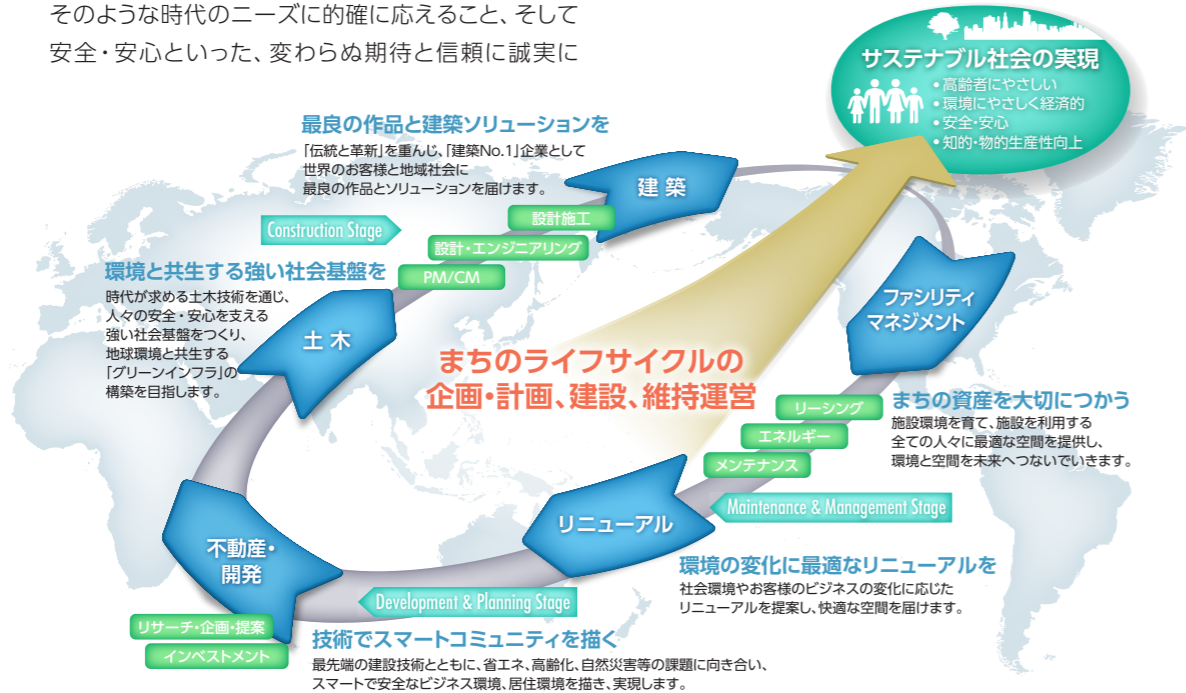
サステナブル社会の実現に向けて
グループの力でまちづくりにかかわり、
「まちづくり総合エンジニアリング企業」
としての総合力を高めていきます。

2020年3月
取締役社長
佐々木 正人

豊かで安心な「まちづくり」

気候変動がもたらす自然災害への備えや環境・エネルギー制約への対応、より強く豊かな国土形成と地方創生、世界の都市・インフラの整備など、私たち建設業が取り組むべき課題は多岐にわたっています。そして人々の暮らし方や働き方の変化、企業活動のグローバル化、更にはAIやビッグデータなどICTの飛躍的発展に伴い、まちや建築に求められる機能や価値も、絶えず高度化・多様化しています。そのような時代のニーズに的確に応えること、そして安全・安心といった、変わらぬ期待と信頼に誠実に

応え続けていくことは、建設業に携わる企業の責任であると考えています。当社は、品質を重視する経営姿勢を貫くとともに企業活動全体の質を高めていくことで、人々が幸せや喜びを感じることができる豊かで安心な「まちづくり」を通じ、これからもグループ全員でSDGsの達成に貢献し、サステナブル社会の実現に邁進してまいります。



グループ成長戦略： グループで、グローバルに、まちづくりにかかわり、新たな価値を創る

私たちはグループ全体の事業領域を「まち」として捉え、グループ各社が緊密に連携し、「まちづくり」の構想段階から企画、計画、建設、維持運営にいたる「まち」のライフサイクルにおいてステークホルダーとの対話を深め、国内外における様々な課題に取り組み、人々が安心して暮らすことができるサステナブル社会の実現を目指します。そのためには建設技術とサービスが融合した新しいソリューションを生み出し、まちに新たな価値を提供することが必要です。私たちは「まちづくり総合エンジニアリング企業」としての総合力を高めるために必要となる多様な専門性、技術力、マネジメント力を発揮し得る経営資源の拡充、機能及び組織体制の整備、魅力ある職場づくりの推進、事業と人材・技術・ICTなどへ

の投資を計画的に推し進めることで、お客様にとって最良のパートナーを目指します。



目指すサステナブル社会と「まちづくり」の推進

「まち」における解決すべき社会的課題や構築する社会システム、サステナブル社会への転換の道筋は多種多様であり、私たちは、「まちの基盤」「経済・文化」「生活(QOL)」「未来」という観点から「まち」の姿に沿って

ビジネスモデルを創出します。そのうえで、様々な領域での対話を通じて「まち」の課題を抽出し、必要な専門領域におけるグループのエンジニアリング力を発揮して「まちづくり」を推進してまいります。

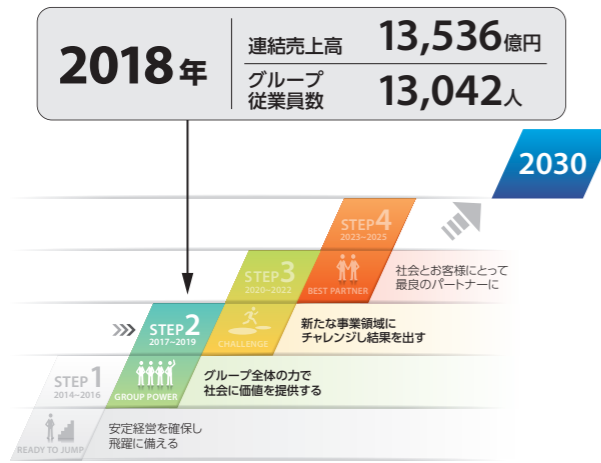
「まちづくり総合エンジニアリング企業」の事業領域



成長に向けたステップと、新たなマイルストーン

「まちづくり」にかかわるうえでは様々な社会課題の解決に向けた取り組みが必要となりますが、2030年がSDGsのゴールの目標年であるとともに、当社の成長戦略STEP3開始から10年という節目になることから、「2030年のグループのマイルストーン」を設定しました。

グループのコア事業である国内建設事業を中心に、技術革新を含む建築・土木事業の高度化により持続的な安定経営を目指し、海外建設事業、開発事業に加え今後は新規・サービス事業の拡大を含め、連結売上高



1.6兆円、グループ従業員数14,000人レベルの体制を構築していきます。

一方、持続的な活動のためには人権尊重とコンプライアンスの遵守に基づいた具体的な目標を持つことが必要です。健全な企業活動のために、今後も従業員が心身ともに健康で活躍できる環境を整え、抜本的生産性向上と働き方改革を実現し、ワークライフバランスの向上を図り、従業員満足度調査をはじめ、平均労働時間、ガバナンスの強化、作業所閉所の状況を可視化していきます。



当社の重要課題(マテリアリティ)の特定

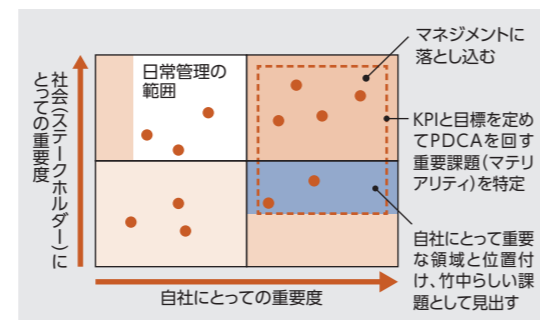
当社では、持続的な活動を展開するためには企業の社会的責任を積極的に果たしていくべきとの観点から、これまでCSR活動として取り組む課題を抽出し、その妥当性を確認しながら選択してきました。今般、2020年からの新3か年計画スタートに際して外部からの視点をより重要視するために、社会の視点と自社の視点を踏まえた「重要課題(マテリアリティ)」を特定し、

その内容を反映した新しい「サステナブル社会に向けた活動計画」を前面に掲げることとしました。今後、最も重要度が高く設定されている「高品質で安全な建築とサービスの提供」の項目をはじめとする、社会と会社にとっての重要課題(マテリアリティ)をしっかりと認識し、長期にわたる企業価値の創造へとつなげていきます。

重要課題候補リスト策定に参照した情報源

SDGs 持続可能な開発目標	GRIサステナビリティ・ レポート・スタンダード
ISO26000	グローバルコンパクト 10原則
SASBセクター別基準	ESG評価機関の指標

当社の重要課題マッピングの考え方



品質経営の基本姿勢

こうしたサステナブル社会に向けた活動計画を実現し、持続性のある事業活動を進めるうえでも、当社では「品質経営」を基本的な姿勢としています。これは、創業以来、建築専門と設計施工一貫を事業の柱としてきた源流が、宮大工の「棟梁精神」にあるということが背景になっています。「棟梁精神」とは、建物を施工する技術・知識だけでなく、多種多様な材料を調達し、組織を率いて大きな仕事を成し遂げる統率力をも併せ持った棟梁の、「請け負った仕事には最後まで責任を持つ」という強い信念であり、これが「品質経営」の根幹となっているのです。

すなわち、当社における「品質経営」とは、「品質重視の経営に徹し、新しい環境創造への挑戦により、お客様満足と社会の信用を得る(品質経営基本方針)」ことであり、品質経営の「品質」とは、単に建物の品質だけを

品質経営基本方針 品質重視の経営に徹し
新しい環境創造への挑戦により
お客様満足と社会の信用を得る

指すのではなく、社会的存在としての「企業活動全体の質」を指しています。当社はこれからも「品質」の向上に弛まず取り組み、持続的に社会に貢献できる「品質経営」を継続してまいります。



山口県防府天満宮所蔵【松崎天神縁起絵巻】

前3か年の振り返りとこれからの取り組み

2017年から2019年までの3か年では、「グループ全体で社会に価値を提供する」ことを目指した取り組みを進めてまいりました。グループが一丸となって「まちづくり総合エンジニアリング企業」としての目指す姿を明確に描き、新たな価値を創ることを持続的な社会の実現に貢献していくための基礎を形成できたものと思います。また、この間には「働き方改革」実現のため

の全社を挙げた活動を展開し、「抜本的な全社生産性向上によるWLB向上委員会」を軸として「11のワークライフバランス推進施策」の策定や、全店におけるダイアログの実施、ワークライフバランス推進のモデル作業所及び地区FMセンターでの週休2日に向けた様々な取り組みを実施しました。

併せて、設計・生産を中心とした全ての業務をデジタル化するための技術開発や業務改革を強化し、更なる生産性向上を図った結果、堅固な国内建設市場動向も背景にして事業目標を概ね達成することができました。本年は、成長戦略のSTEP3スタートの年にあたり、グループとして「新たな事業領域にチャレンジし結果を出す」ことを目指していきます。足元では、社会課題でもある働き方改革に必要な環境整備や制度改定を加速させる必要があります。一方、事業面では、国内建設市場における競争が激化しつつあり、開発事業の推進面でも厳しい環境側面が訪れています。こうした中、当社グループは安全と品質を軸とした建築事業の高度化を更に推し進め、まちづくり事業の取り組みと事業領域の拡大によって様々な社会課題に応えるソリューションを提供していきます。



重要課題(マテリアリティ)を特定

竹中工務店は、「まちづくり総合エンジニアリング企業」として社会課題を解決し、サステナブル社会を実現するための重要課題(マテリアリティ)を特定しています。今後の長期成長戦略に重要課題を組み込み、その実現に向けた具体的な活動計画と目標を定め、事業活動を展開していきます。

重要課題(マテリアリティ)特定のプロセス

重要課題(マテリアリティ)の特定については、外部の専門家と社内の関連部門によるワークショップや、有識者とのダイアログなどを行い、外部の視点も十分考慮しながら策定を進めました。

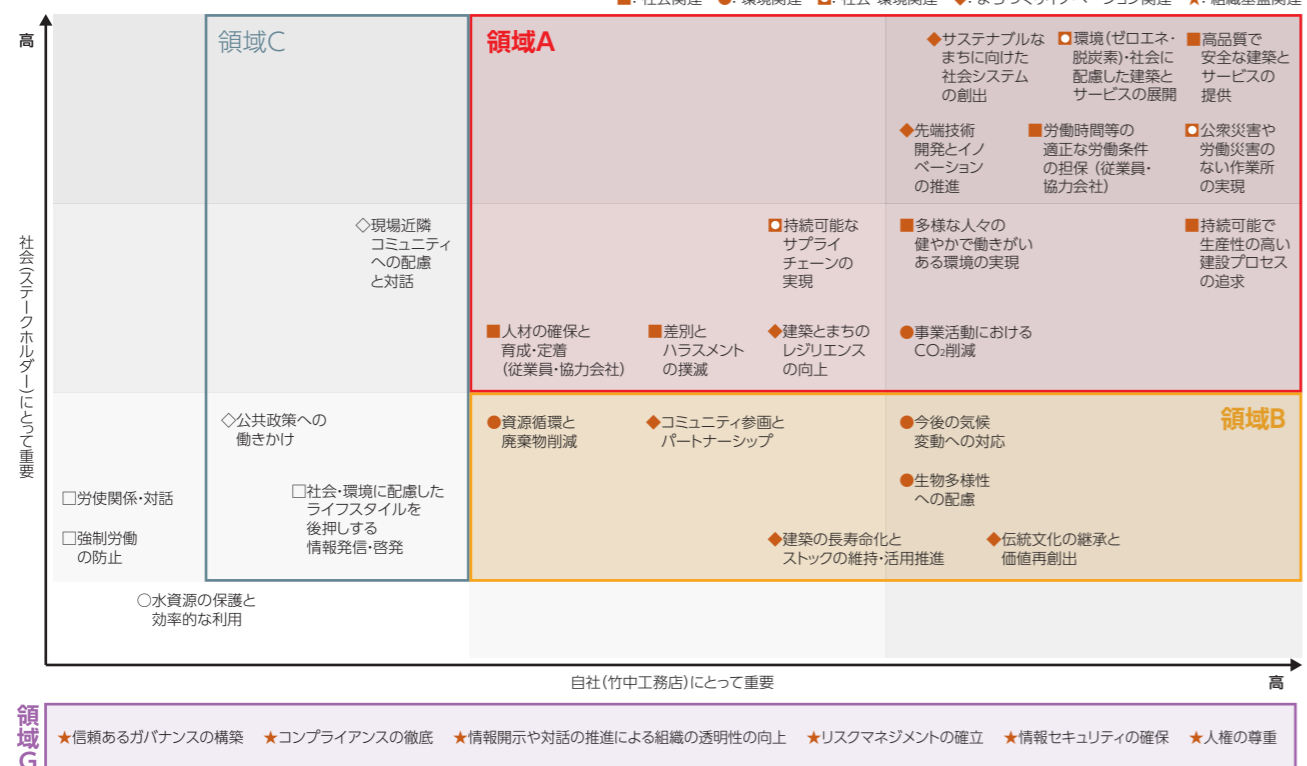


抽出された社会課題の重要度評価

抽出された社会課題を社会(ステークホルダー)と自社の2つの視点で評価し、下図のように、最重要課題領域(社会からの要請も大きく、短・中・長期での事業機会とリスクに最も強く関係する領域=領域A)、重要課題領域(社会からの要請は現時点では一定レベルだが、事業を通じて社会

に積極提案していく領域=領域B)における課題を決めました。組織基盤として重要な課題(領域G)については別途決めました。また、重要課題にはならなかったが、日常的に活動し、モニタリングする領域Cやその他についても継続的に取り組んでいきます。

重要課題とマトリックス



重要課題(マテリアリティ)グループ分けとSDGs

重要課題グループ	重要課題	SDGsとの関わり
持続可能な建築・まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 環境(ゼロエネ・脱炭素)・社会に配慮した建築とサービスの展開 ◆サステナブルなまちに向けた社会システムの創出 ◆建築とまちのレジリエンスの向上 ◆建築の長寿命化とストックの維持・活用推進 ◆伝統文化の継承と価値再創出 	11, 3, 7, 13, 15
環境との調和	<ul style="list-style-type: none"> ●事業活動におけるCO₂削減 ●今後の気候変動への対応 ●生物多様性への配慮 ●資源循環と廃棄物削減 	13, 15, 8, 12
技術革新と共創	<ul style="list-style-type: none"> ◆先端技術開発とイノベーションの推進 ◆コミュニティ参画とパートナーシップ 	9, 17
働き方・生産性改革	<ul style="list-style-type: none"> ■労働時間等の適正な労働条件の担保(従業員・協力会社) ■持続可能で生産性の高い建設プロセスの追求 ■多様な人々の健やかで働きがいある環境の実現 ■差別とハラスメントの撲滅 ■人材の確保と育成・定着(従業員・協力会社) 	8, 5, 9, 10
着実な生産プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ■高品質で安全な建築とサービスの提供 □公衆災害や労働災害のない作業所の実現 □持続可能なサプライチェーンの実現 	12, 11
健全な組織基盤	<ul style="list-style-type: none"> ★信頼あるガバナンスの構築 ★コンプライアンスの徹底 ★情報開示や対話の推進による組織の透明性の向上 ★リスクマネジメントの確立 ★情報セキュリティの確保 ★人権の尊重 	16, 5, 10

■: 社会関連 ●: 環境関連 □: 社会・環境関連 ◆: まちづくりイノベーション関連 ★: 組織基盤関連

SDGsや事業活動との関係性の整理

最終的に特定された重要課題について、事業活動との関係性を踏まえて6つのグループに分けました。また、社会課題の抽出・評価と並行して、各課題とSDGsの紐づけを行いました。最終的に当社としてのSDGsとのかかわりを整理し、上表のようにまとめました。更に、課題解決に向けて実行していく方策と、その進捗や達成度合いを測るKPI・目標を定め、活動計画として実践していきます(P15,16)。そして、「私たちの活動をどのように進めていけば、サステナブル社会の実現とSDGsの達成に貢献することができるか」を構造化したのが右図です。「健全な組織基盤」のもとに、「技術革新と共創」「働き方・生産性改革」と「着実な生産プロセス」を、「環境との調和」をしながら進めることで、「持続可能な建築・まちづくり」を目指していきます。



竹中工務店の目指すサステナブル社会

サステナブル社会に向けた 2020-2022年活動計画

最終的に特定された重要課題(マテリアリティ)について、本社関連部門と、課題の主な「影響範囲(環境・社会/お客様/従業員/協力会社)」、課題解決に向けて実行していく「方策」、進捗や達成度合いを測る「指標(KPI)」、更に2020年から3か年の「目標値」を定め、経営幹部が参加する「CSR推進中央委員会」で審議、決定しました。この「サステナブル社会に向けた2020-2022活動計画」は、本社各部門や各本支店の3か年計画にも落とし込まれ、「CSR推進中央委員会」で進捗状況を確認・フォローしながら、全社的推進を図っていきます。



重要課題グループ	重要課題(マテリアリティ)	影響範囲				方策	指標(KPI)	目標値			貢献するSDGs
		ES	C	E	S			2020年	2021年	2022年	
持続可能な建築・まちづくり	環境(ゼロエネ・脱炭素)・社会に配慮した建築とサービスの展開	○	○			木造・木質建築の推進	木造・木質建築選定プロジェクト件数	11件	13件	15件	
						ZEB・エネルギー・マネジメントの推進	ZEBプロジェクト/エネルギー・マネジメント提案件数	10件/10件	15件/13件	20件/15件	
						ウェルネス建築の推進	ウェルネス建築認証件数	10件	13件	15件	
	持続可能なまちに向けた社会システムの創出	○	○			まちの社会課題探求と課題を解決する社会システムの検討	社会システム実証等活動数	9件	10件	11件	
						社会システムの構築による事業化の推進	事業化数	3年で2件以上			
						まちづくりの起点となるプロジェクト創出	プロジェクト提案件数	3件	5件	5件	
	建築とまちのレジリエンス向上	○	○			災害対策・支援メニュー拡充と適用	進捗度	新メニューの開発とプロジェクトへの適用開始*1			
建築の長寿命化とストックの維持・活用推進	○	○			価値を生み続ける資産経営・施設運用のための調査・提案技術の強化	進捗度	技術の強化とプロジェクトへの適用推進*1				
伝統文化の継承と価値再創出	○	○			伝統建築・歴史的建築物の保存・再生・活用の推進	伝統建築保存再生プロジェクト実施/取組件数	3件/5件	3件/5件	3件/5件		
環境との調和	事業活動におけるCO2削減	○	○	○	○	作業所・事業所におけるCO2削減の推進(スコープ1・2)	施工時原単位	10.1CO2t/億円	9.9CO2t/億円	9.7CO2t/億円	
	今後の気候変動への対応	○	○	○	○	気候変動に対応する設計・施工技術の開発・実施	進捗度	新たな技術開発とプロジェクトへの適用推進*1			
	生物多様性への配慮	○	○	○	○	生物多様性向上プロジェクトの推進	生物多様性向上プロジェクト数	10件	12件	15件	
	資源循環と廃棄物削減	○	○	○	○	資源循環・廃棄物削減に向けた設計・調達段階からの検討 新築工事の廃棄物リサイクルの推進	リサイクル率(容積比)	93.0%	93.5%	94.0%	
技術革新と共創	先端技術開発とイノベーションの推進	○	○	○	○	ロボット・AI化・デジタルデータ活用/新材料等の先端技術開発	適用・実用化件数	10件	12件	15件	
	コミュニティ参画とパートナーシップ	○	○	○	○	多様な人々が交流する場や仕組みづくり 注目領域におけるパートナーシップ参画・構築の推進	交流の場づくり・イベント数	実績管理*1	前年比同等以上	前年比同等以上	
働き方・生産性改革	労働時間等の適正な労働条件の担保			○	○	適切なプロジェクト工期と人員の確保 フロントローディングによる着工後業務の削減	作業所閉所目標達成率	4週7閉所 100%	4週8閉所 100%	4週8閉所 100%	
	持続可能で生産性の高い建設プロセスの追求			○	○	工業化や高効率構工法の設計取り込みによる労務工数の削減 BIM・デジタルファブリケーションによる効率化と手戻りの削減	施工高効率 施工高管理効率	1.81万円/人・時間 11.6万円/人・時間	1.88万円/人・時間 12.1万円/人・時間	1.96万円/人・時間 12.6万円/人・時間	
	多様な人々の健やかで働きがいのある環境の実現	○	○			ワークライフバランス(WLB)推進による多様な働き方の実現	従業員満足度	3.60以上	3.65以上	3.70以上	
						ダイバーシティの推進 健康経営ガイドライン等を踏まえたPDCAマネジメントの実施	女性管理職比率 健康経営度調査総合評価点	4.5%以上 500点以上	5.0%以上 500点以上	5.5%以上 500点以上	
	差別とハラスメントの撲滅			○	○	ハラスメントの環境調査・教育啓蒙の実施	教育実施率	100%	100%	100%	
	人材の確保と育成・定着			○	○	【従業員】環境変化に応じた若年層社員教育の見直し 【協力会社】協力会社と一体となった入職活動と労務資金見直し 技能労働者の育成・技能継承施策の展開	新卒者離職率(入社3年時点) 新規入職技能労働者数	3.5%以下 720人	3.0%以下 720人	3.0%以下 720人	
着実な生産プロセス	高品質で安全な建築とサービスの提供	○	○	○	○	協力会社を含む設計段階からの品質作り込み	重大な品質問題発生件数	0件	0件	0件	
	公衆災害や労働災害のない作業所の実現	○	○	○	○	安全先取り計画の推進/多様化する作業員の知識・意識の向上	重大な公衆災害・労働災害発生件数	0件	0件	0件	
	持続可能なサプライチェーンの実現	○	○	○	○	CSR調達ガイドラインの周知と運用 環境を考慮したグリーン調達の継続	周知・適用率 重点グリーン調達品目採用数/1プロジェクト	周知率100% 10品目以上	適用率70% 10品目以上	適用率100% 10品目以上	
健全な組織基盤	信頼あるガバナンスの構築 コンプライアンスの徹底 情報開示や対話推進による組織の透明性向上 リスクマネジメントの確立 情報セキュリティの確保 人権の尊重	○	○	○	○	企業倫理中央委員会・コンプライアンス/ 危機管理委員会での統制・管理	重大なコンプライアンス事案の発生数	0件	0件	0件	

ES: 環境・社会 C: お客様 E: 従業員 S: 協力会社

*1 2020年中に定量的目標値を設定の予定

環境への取り組み

当社は環境方針のもと、自然共生社会・低炭素社会・資源循環社会の実現に向けて環境への取り組みを進めてきました。この度、新たな視点を加えて重要課題(マテリアリティ)を設定するとともに、グループの活動を包含するCO₂削減長期目標を設定しました。これらの課題解決・目標達成に向けて活動を推進していきます。

環境関連の重要課題(マテリアリティ)

2020年以降の活動計画における重要課題として、環境関連では6項目を設定しました。環境方針の活動指針に掲げた「自然共生社会・低炭素社会・資源循環社会の実現」に向けたテーマの他、気候変動への適応、持続可能なサプライチェーン実現などの視点を盛り込んでいます。

- 環境・社会に配慮した建築とサービスの展開
 - ◆ 木造・木質建築の推進
 - ◆ ゼロエネルギービルの推進
- 事業活動におけるCO₂削減
- 今後の気候変動への対応
- 生物多様性への配慮
 - 資源循環と廃棄物削減
 - 持続可能なサプライチェーンの実現
 - ◆ グリーン調達への推進

● 環境・社会に配慮した建築とサービスの展開
環境・社会に多面的に貢献する木造・木質建築や、低炭素社会に向けたゼロエネルギービル、エネルギーマネジメントシステムなどの普及を目指していきます。



木造・木質建築の推進



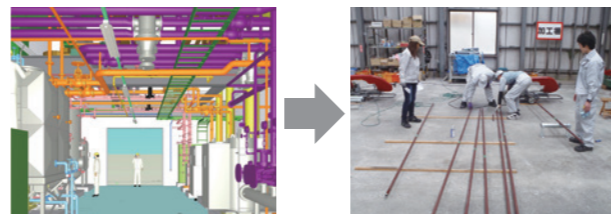
ゼロエネルギービルの推進

● 生物多様性への配慮
自然が持つ機能を利用して水循環改善や防災・減災などにつながるグリーンインフラ関連技術の開発や、生物多様性の向上に貢献するプロジェクトの更なる創出を目指していきます。



竹中技術研究所に整備した技術実証の場「調の森 SHI-RA-BE™」

● 資源循環と廃棄物削減
作業所における3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動の継続に加えて、BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)の活用と建材の工場加工による端材の削減や、設計段階から解体時の廃棄物削減を考慮するなど、様々な視点で建設廃棄物の削減に取り組んでいきます。



BIMの3Dデータを基にした配管の工場加工

環境方針
環境と調和する空間創造に努め
社会の持続的発展に貢献する

- 活動指針
1. 自然共生社会、低炭素社会、資源循環社会の実現に向けた活動を積極的に推進する
 2. 環境保全に関する法規、社内例規を遵守し、環境リスク対策を推進する
 3. 品質保証体系に基づき確実な環境マネジメントを実施する
 4. 教育の実施により環境に対する意識の向上を図る
 5. きめ細かい環境コミュニケーションを実施する
 6. 社会的な環境活動に積極的に参加する

CO₂削減長期目標

当社は、2010年に環境メッセージ「人と自然をつなぐ」と、2050年を見据えた環境コンセプトを制定、併せて長期目標を設定して、ネット・ゼロエネルギービルの普及を目指してきました。世界でパリ協定の目標達成への動きが加速していることを受け、当社の長期目標を拡大し、自社のオフィスや作業所における省エネルギーの取り組みや保有技術の展開・グリーン調達などを含め、幅広い取り組みを対象とした全社的なCO₂削減長期目標へと進化させました。竹中グループ一丸となり、事業活動にかかわる全てのCO₂排出量削減に取り組んでいきます。



社会課題解決に向けたまちづくり

—MACHInnovation(マチノベーション)®の推進—

当社は、地方の山と都会を結ぶ「森林ブランドサイクル」^{※1}や、「農地・緑地・水辺を活かした、心と体の健康」^{※2}タウンの構築など、地域の資源を生かし、社会課題に対してこれから目指す社会・まちの姿を描き、課題解決に向けた仮説をつくり、地域の方々とともに実証実験を行いながら検証・実装を進めています。これらの活動に「MACHInnovation(マチノベーション)®」と名付け、行政・地域住民・企業・NPOなど多様なステークホルダーの方々と対話や連携を行い、まちづくりから社会システムの構築に向けて活動を広げていきます。

※1 森林ブランドサイクル®:森林とまちをつなぎ、森林資源の循環と木材を活用した地域経済の循環をつくる活動
 ※2 健康:健康でいきいき生活できる空間を交流・身体活動・感性の観点から実現する活動



イースト・ベイ構想実現に向けて

当社の東京本店が立地し、2020年開催の大会を契機に臨海部のまちづくりが期待される江東区の湾岸・運河エリアにおいて、「イースト・ベイ構想」という未来像を掲げ、まちづくりを進めています。この活動は、江東地域が水門に囲まれた運河や川を持つベイエリアである特徴を踏まえ、水域の活用・活性化により陸域の価値向上を図ることを目的とし、様々なステークホルダーの方々と協働し実践しています。

● 木のまちづくり

昔、木の街であった深川エリアの門前仲町において、大横川沿いの飲食店に川床テラスをつくり、水辺を木質化することによって、水辺のにぎわいや観光名所づくりにつなげる社会実験を行っています。将来的に川沿いの木質化を景観的にも事業的にも成功させることで、今後、連鎖的に木質化していき、水辺のにぎわいがつながっていくことを目指しています。また、川床の材料は、江戸期から昭和頃まで木材の舟運が盛んに行われていた荒川の流域に位置する埼玉県比企郡小川町産のものをを使い、地域での資源循環モデルの試みも併せて行っています。



フィットネスロード汐浜運河の歩幅測定

● 健康緑道

まちや健康への関心が高まる仕組みを通し、喜びや楽しさを感じてもらうことを目的に、江東区東陽1、2丁目の汐浜運河沿いをまちづくり協議会や周辺の企業と連携し、健康になる緑道化した歩道が「フィットネスロード汐浜運河」です。この歩道では、自身の歩幅を確認することのできる「ステップウォーキング」や、リフレッシュ効果のあるハーブのプランターを設置するなど、歩きながら楽しむことのできるスポットを用意しています。こうしたコンテンツや仕組みが地域の活性化や健康にどのように波及していくか、今後も社会実証を重ねていきます。



川床プロジェクト

雲南ソーシャルチャレンジバレーの推進

当社は2019年4月に島根県雲南市・ヤマハ発動機(株)・NPO法人ETICと雲南市内の地域課題解決と市民の豊かな暮らし創造に資するための「地域連携協定」を締結しました。また、協定締結の一環で、当社の社員を「地域おこし企業人」として雲南市における政策企画部政策推進課に研修派遣を行っています。雲南市では、地方創生戦略として「子ども×若者×大人チャレンジ」を掲げ、地域住民や若者たちが自ら地域の課題を解決したり、地域ぐるみで子どもたちの生き抜く力を育むなどの取り組みを推進しています。今回新たに「雲南ソーシャルチャレンジバレー」として構想し、その一環として地域課題の解決に関心のある市内外の企業が地域とともに社会課題解決・新たな価値創造を目指した様々なチャレンジを行い、社会実装まで目指す取り組み「企業チャレンジ」を立ち上げました。



地域連携協定調印式

当社から派遣している社員がこの「企業チャレンジ」の事務局を担い、仕組みの構築・企業と地域の橋渡しを進めています。具体的なチャレンジとしては、ヤマハ発動機が、グリーンスローモビリティを活用した街づくり・地方創生に向けて実証事業を開始しています。当社も健康なコミュニティを支える社会システムや事業創出を

目指しています。地域のソーシャルにかかわる情報を一元化し、データを通じて地域の健康を生み出す力を向上させる仕組みを構築すべく、コミュニティ拠点やヤマハ発動機の実証事業における「笑顔」を測定し、地域や活動の活性化と健康との関係性を実証していきます。雲南市から生まれた社会課題を解決するまちづくり・社会システム・新規事業が日本・世界の地域や社会に広がっていくことを目指して活動を今後も深めていきます。



ヤマハ発動機グリーンスローモビリティ実証事業及び笑顔測定の様子

今後の展開

これらの活動を着実に深めていくとともに、今後は更に地域を広げていきたいと考えています。2019年11月には埼玉県比企郡小川町及びNPO法人あかりえと、2020年1月には長野県塩尻市と「連携協定」を締結しました。「森林ブランドサイクル」に関する取り組みを協働により推進することで、持続可能な社会づくりや地域課題の解決に貢献していきたいと考えています。また、地域が持っている歴史的建物・文化資源などの活用やエネルギーの地産地消などについても取り組んでいきます。このように、自治体・地域の方々をはじめとした様々なステークホルダーと連携・協働し課題解決に向けた構想を立案し、社会実験から実装へとプロセスを進めるMACHInnovation(マチノベーション)の活動で、地域の資産と課題に寄り添い、知恵を出し合い、実践していきます。

建設プロセス改革と多様な働き方の実現

建設業の持続可能性を維持していくために、建設技能者の減少への対応や、ワークライフバランス(WLB)の向上を図っていくことが喫緊の課題となっています。そのために、BIM*やICT、機械化施工やAI/ロボティクスなどの最新技術を取り込みながら、設計から生産に至る業務プロセス全体を変革することで、生産性向上を目指しています。

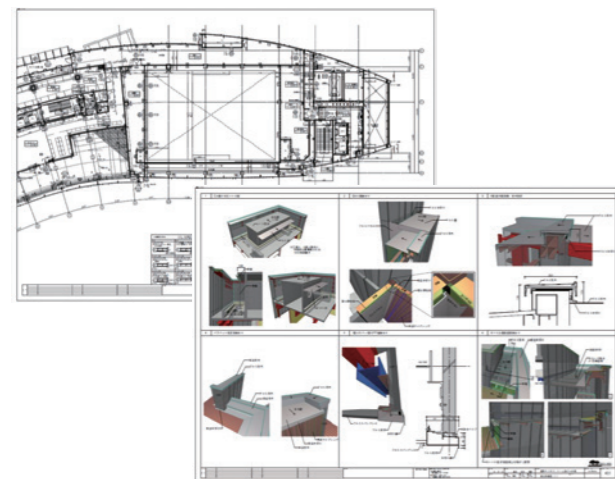
*BIM:3次元の建物デジタルモデル(Building Information Modeling)

設計施工一貫 BIMとデジタルファブリケーションの推進

私たちは、棟梁精神を継承する中で、営業からアフターケアまでの設計施工一貫システムを培ってきましたが、BIMについても、設計段階から生産部門だけでなく協力会社も参画するフロントローディング体制を確立しています。すでに構造や設備モデルとの整合を図るだけのステージから、躯体や製作モデルとの設計段階からの連携へ、更に、鉄骨の工作や設備配管のプレカットなど、工場加工へ連動したデジタルファブリケーションのステージへ進化しています。また、2018年からフロントローディングを促進する「プロダクト部門」を新設し、設計と生産モデルの連携強化を図っています。

● 設計モデルと生産モデルとの連携

福岡PayPayドームに隣接するE・ZO FUKUOKAでは、内勤各部門や協力会社との有機的連携により、BIMデータを中心としたデジタル・コンストラクションを推進しています。生産のフロントローディングにより、基本設計段階から設計部門との協業を進め、屋上廻りや外装と防水の取合い納まりなど、生産情報を設計モデルに盛り込んで、施工へのシームレスな展開を図っています。また、施工段階では、工事進捗を含めた3D+時間の4D活用や、施工シミュレーションを実施し、お客様や協力会社とのタイムリーで分かりやすい工事情報の共有を実現しています。



設計に盛り込まれた3Dによる外装・防水など取合い検討



4D活用による工事打合せ

● コンピュータショナルデザインへの対応

リバーホールディングス本社では、コンピュータショナルデザインによって、採光・熱負荷などの環境条件や構造条件のパラメーターから、合理的な形状を決定しましたが、生産性のうえでは複雑な形状が課題となりました。設計段階から作業所長予定者を配置し、BIMによる配筋の納まりや、墨出しを含む型枠の施工方法、足場の形状検討などを行うことで、手戻りのない合理的な施工を実施しました。



曲面により構成された複雑な躯体施工



3D断面による足場・仮設検討

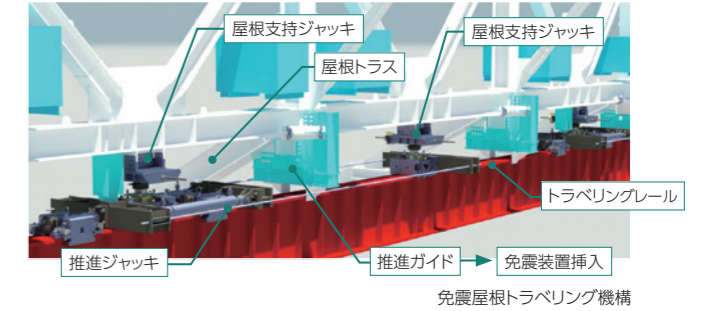
機械化施工の推進とICT/AI活用の拡大

当社では、屋根などをジャッキアップして移動しながら施工するトラベリング工法®(横浜アリーナ)や、地上で組み立てて持ち上げるリフトアップ工法(ナゴヤドーム)など、多くの機械化工法を採用してきました。有明アリーナでは、初の免震構造の屋根トラベリングにチャレンジし、大幅な省人化を実現しました。また、BIMデータとQRコードを活用した、施工情報の一貫管理システムや、ドローンを用いたAI品質確認技術の開発など、先端テクノロジーとオープンイノベーションを利用した生産性向上にも取り組んでいます。

● 免震屋根トラベリング機構の開発

有明アリーナは、大面積の屋根工事がクリティカルパスになるため、実施設計はトラベリング工法®(特許出願済)を前提に進めましたが、屋根が免震構造のため、免震装置と干渉しない

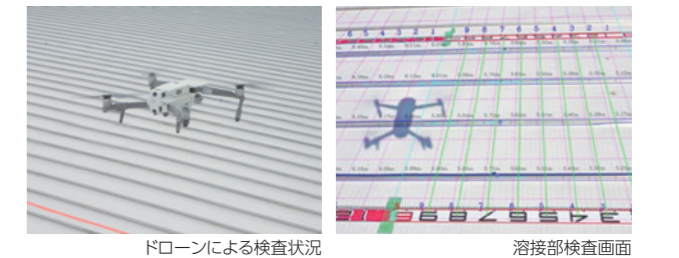
移動機構の計画が必要でした。そこで、免震装置を避けた屋根支持ジャッキと複数の推進ジャッキ、これらと連動した制御システムを含む新たな移動機構を構築し、大幅な省人化と安全性向上を実現しました。



免震屋根トラベリング機構

● ドローンによる品質確認技術の開発

ステンレス製屋根の溶接部検査は、従来、管理者の熟練度とマンパワーに依存した目視確認でした。当社では、この合理化を図るため、大規模コンベンション施設の屋根工事に於いて、ドローン撮影により溶接品質を判定する技術を開発(特許出願済)しました。これにより検査が大幅に効率化され、検査結果が正確な位置情報とともに記録できるようになりました。今後、AIによる不具合検出の自動化を実現させ、更なる検査水準の平準化と検査の効率化を目指していきます。



ドローンによる検査状況

溶接部検査画面

ワークライフバランス(WLB)推進による多様な働き方の実現

私たちの働き方を見直し、魅力ある建設業界を目指す活動は3年が経過しました。2019年は、多様な働き方を実現するために、テレワークの試行や外出先での隙間時間を有効活用する「タッチダウンオフィス」を、都心にある地区FMセンターに設置しました。また、勤務時間については、フレックスタイム制の試行対象を拡大するなど、働く場所、働く時間を柔軟に選択できる制度化を進めています。ワークライフバランス向上の核として、社長をはじめとする役員が、従業員と直接対話する「WLBダイアログ」を毎年開催し

ており、2019年は全国13本支店で若手社員とその上層層を対象に実施し、延べ250名が参加しました。更に、職場でのWLB向上とコミュニケーションの活性化を目的に、ワークショップを全国の作業所や地区FMセンターで開催し、これまでに14か所、延べ251名が参加し、「働きがい」について考えました。参加者からは、「参加者同士が互いの大事にしている価値観を知ることによって仕事を進めやすくなった」という意見も聞かれました。私たちは引き続き、作業所4週8閉所の実践と働きがいの向上を目指して、活動を進めていきます。



岡山地区作業所働きがいワークショップ



大手町地区FMセンタータッチダウンオフィス

お客様の想いをかたちに

建物に求められる機能は高度化、多様化しています。
「サステナブル・ワークス®」「総合力から生まれるデザイン」「魅力再生®」などに
持続的に取り組みながら、建築の新たな価値創造にチャレンジしています。



サステナブル・ワークス®

当社が提唱する「サステナブル・ワークス®」とは、「お客様とともに環境に調和する空間創造を行うことを目指した建築への取り組み」を意味します。持続可能な社会を次世代に手渡すための建築からのアプローチであり、地球環境や社会に貢献したいと願うお客様の想いをかたちにするお手伝いでもあります。

ペプチドリーム 本社・研究所

—風景にひらく開放的な研究所—

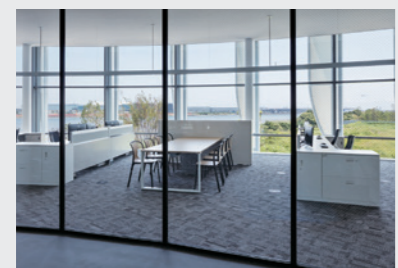
設計・施工=竹中工務店(2017)

創業分野でイノベーションを生み出し続けているペプチドリームの新社屋です。創業のフェーズから事業拡大のフェーズへの移行に伴い、創業の地からの移転・新社屋建設が決定されました。本計画では、最先端の研究を可能にするラボの創出とともに、眼前の風景を取り込んだこの場所独自の豊かな執務環境の創出を目指しました。医薬系ラボとしての機能と良好な眺望を両立するための湾曲した平面形状や、眺望と環境性能を最大化する膜材の外装ルーバー、空間のコンセプトを強化する最小限の照明計画により、

広大な風景を取り込んだ明るく開放的な執務空間を生み出しています。また、1階共用部では既存地形の内部への取り込みや、内外各所に配されたアートワークによって、様々なスケールで内外をつなぐ空間を創出しています。湾曲した形状と、位置・角度によってグラデーションに形状を変化させていくルーバーが生み出した象徴性の高い外観は、今まさに世界へ漕ぎ出しているペプチドリームの企業アイデンティティを具現化しつつ、この場所における新たなランドマークとして立ち現れています。

3 自然と呼吸する外皮・快適健康空間

外装ルーバーにより強化された内外部のつながり
東・南からの直達光を遮りつつ北側へ視線が抜けるように外装ルーバーを北東方向へ向けたことで、多摩川を越えて大きく視界が広がる開放的なオフィス空間を実現しました。膜材で構成されたルーバーの効果で柔らかな拡散光がオフィス空間を満たし、精神衛生がより改善されます。



11 事業性と資産価値

機能的なラボ天井懐
大スパン(12mx40m)・無柱のラボ空間にはH1,800mmのフィーレンディールトラス架構を採用し、その架構の中を設備・ユーティリティスペースとしています。また天井に歩行対応パネルを用いることでメンテナンスの容易な、かつフレキシビリティの高いラボ機能の確保を目指しました。



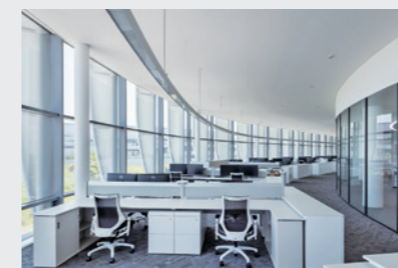
15 地域景観と環境の質の向上

地域性と風環境に配慮したオープンスペース
多摩川に面したテラス空間は、川沿いの強い卓越風を改善するための効果的な樹木配置をシミュレーションし、季節を通して快適な環境を提供できるよう計画しました。また、地域の潜在植生に配慮した樹木を採用することで中・長期にわたり計画地内外の豊かな環境を形成していきます。



13 ゼロエネルギー指向

開放性と省エネルギーを両立する空調・照明システム
3.7mの高い天井高さを持つ執務スペースでは、床吹出し空調を採用することで快適性と省エネルギーを両立しています。また、H2,400mmの高さに設定されたライン型吊照明は、昼光センサーにより外部環境と連動しつつ、明るく開放的な執務スペースを創出しています。



8 感性を刺激し、動きがいを向上させる空間

記憶を織り込んだアートワーク
廣瀬智央氏によって作成された共用部のアートワークには、分子モデルの模型やロゴ入りのカフスなど、建築主ゆかりの品がアクリル作品の中に封入されています。創業からの記憶が、新しい社屋でも息づいてくれることを願います。



12 エコマテリアルの利用

FSC認証材を使用したフローリング
1階のロビー空間の床材にはFSC認証材を使用したオーク複合材のフローリングを採用しています。森林の環境保全に配慮し、地域社会の利益にかなない、経済的にも継続可能な形で生産された木材に与えられるこの認証材を使用することで、世界の森林保全に貢献し、環境負荷低減に取り組みました。



お客様の想いをかたちに

総合力から生まれるデザイン

常葉大学静岡草薙キャンパスは、周囲を豊かな自然に囲まれながらも、静岡市中心部に近い立地で利便性が高く、年間を通して温暖で穏やかな気候です。場所の持つポテンシャルと4,000人の学生が集うことによる可能性を最大限引き出して活性化させキャンパスに新たな価値を生み出す空間づくりを目指しました。

地域に開かれた大学として塀をなくし、国道の流れに対して壁柱でゲートを構成して顔をつくり、門をくぐって中に入ります。隣接する住宅地とは距離をとり広場としました。採光や通風を考慮した隣棟間隔を確保して4棟に分節し、下階に大空間、上階に専門性の高い小さな空間を配置しています。学生の居場所として2階を南北に貫く「キャンパスリビング」を設け、全体をつなげることで大人数での円滑な移動が可能です。各棟の間には外部のオープンスペースから直接アクセスできる憩いの空間「ステップテラス」を設置して立体的につなぎ内外を一体化しています。



キャンパスリビングは大小様々な吹抜で1階から3階までをつなぎ、空間に都市性を与え立体的なネットワークをつくることで、教室内にとどまっていた「学び」を解放しています。

常葉大学 静岡草薙キャンパス

「自然・地域・交流の拠点」となる
地方中核都市型キャンパス

設計・施工=竹中工務店(2018)



「キャンパスリビング」の端部は、体育館までつながった空間としています。大階段は学生の動線の効率だけではなく、空間を多目的に利用するためにも役立ちます。



「ステップテラス」は学生の動線となるとともに、外部の緑や富士山への眺望による憩いの場所であり、建物内への通風も確保しています。



広場には桜並木と4つのテラスがあり、学生たちの多様な活動が地域とつながることでキャンパスが「開かれた知と地の拠点」となることを意図しました。

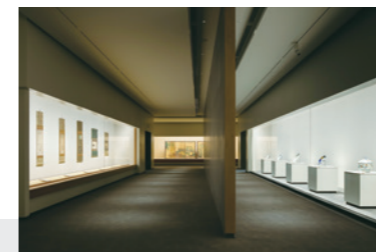


旧山口萬吉邸 / kudan house

昭和2年(1927年)に竣工したスパニッシュ様式の洋館、「旧山口萬吉邸」(千代田区九段北)の歴史性を活かして再生しました。当社も事業に参画し、旧個人邸を会員制のビジネスインノベーション拠点として運用しています。歴史的建物について経済性にも配慮して保存・活用を継続させる「レガシー活用事業」としてサステナブル社会の実現に貢献しています。

2018年 登録有形文化財(国)

改修設計=竹中工務店
改修施工=東京理建(2018)



MOA美術館

相模湾を見渡す高台に建つ築36年の美術館です。インド砂岩の外装は当時のまま、ロビー、展示室などを既存の良さを活かしながら全面リニューアルしました。従来の美術館では困難であった古材や黒漆喰などを展示空間に採用し、古美術展示にふさわしい鑑賞空間に生まれ変わりました。

第24回BCS賞受賞
第13回BELCA賞ロングライフ部門受賞
第28回BELCA賞ベストリフォーム部門受賞
改修基本設計・デザイン監修=新素材研究所
一部の改修基本設計・実施設計・施工=竹中工務店(2017)



魅力再生®

建物は私たちの生命や財産を守る器であるとともに、時を経て社会的資産に変化していきます。当社の推奨する「魅力再生®」とは、建築時の機能や美観を回復するだけではなく、新たな機能を付加することで資産価値を高め、事業性を向上させることを意味します。

環境保全やサステナブルな観点から、「スクラップ&ビルドからストック活用へ」という考え方が浸透しつつあります。時代のニーズに合わなくなった建物の基本機能・性能の向上だけでなく、歴史的な意義をもつ建物の保存と活用の両立、用途変更(コンバージョン)による新たな価値創造など、求められる機能も多様化、高度化しています。「魅力再生®」には、当社が手掛けた数々の実績で培った設計力や技術力が活かされ、BELCA賞(公益社団法人ロングライフビル推進協会主催)を受賞するなど、高い評価を得ています。



御堂ビル インベーションスペース 整備計画

築50年超の当社本社ビルを改修し、時代の変革に対応した新しい価値を創り続けるためのワークスペースに再生しました。既存の床に5層の吹抜け階段を設け、偶然の出会いと情報共有の確率を高めるとともに、仕事に応じた多様な空間を設けています。BIMを用いた「建築の新しいつくり方」にも挑戦しています。

2018年 第18回BELCA賞ロングライフ部門受賞
第31回日経ニューオフィス賞 ニューオフィス推進賞
設計・施工=竹中工務店(2017)



お客様のグローバルな事業活動をサポート —各国・地域に貢献—

長い歴史をもつ当社の海外活動は、1960年のアメリカ進出をきっかけに本格化し
現在では世界各地にネットワークを広げています。

海外進出を目指す日本企業、各国公的機関や現地企業などをお客様に、国際空港から
超高層オフィス・ホテル・工場・美術館など、多彩なプロジェクトを手掛けてきました。
設計施工はもとより、技術指導・コンサルティング業務など、活動範囲も多岐にわたっています。

海外の主な営業拠点を掲載しています

■ ヨーロッパ

1973年にドイツ・デュッセルドルフに事務所を開設して47年。
ヨーロッパ竹中は、これまで1,500以上の工事を手掛けてきました。現在では12か国に展開する拠点で活動する約60名の
駐在員と約550名のローカルスタッフが連携し、ヨーロッパ域
内への進出を検討されているお客様を支援しています。



* 開発事業

ヨーロッパ

アジア/中国

■ アジア / ■ 中国

タイ、シンガポール、インドネシアにおいては
拠点設立から46年目を迎えました。マレーシ
アでは2020年に拠点設立から30年目を迎え
ました。2017年にはベトナムに拠点を設立し、
現在8か国で展開しています。中国を含めた
アジア地域への駐在員は約150名、ローカル
スタッフは約1,700名が活動しています。プロ
ジェクトの規模や建築種別にかかわらず幅広く
対応しています。

「Jaguar Land Rovers Supplier Excellence Awards」で「Gold Award」を受賞

2019年5月14日、ヨーロッパ竹中は、ジャガー・ランドローバー
が主催する「Supplier Excellence Awards 2018」において、
建設会社として初めて「Gold Award」を受賞しました。2018
年に竣工した「ジャガー・ランドローバー スロバキア新工場*」
でのプロジェクト対応が高く評価されたものです。当社は今後
も、世界各地で、お客様にとって価値の高い魅力ある建築作品
を提供していきます。

※当社がスロバキア コトラ市で手掛けた約26万㎡の自動車工場です。

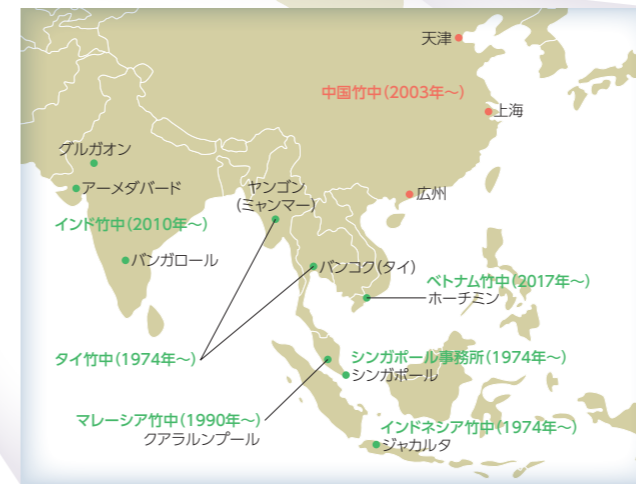


ジャガー・ランドローバー スロバキア新工場
(2018年 スロバキア)



「Supplier Excellence Awards 2018」 Gold Award 表彰盾

アメリカ



* 開発事業

■ アメリカ

当社はアメリカへ1960年に進出し海
外事業の礎を築きました。現在は開発
事業及びコンサルティング事業を中心
に活動しています。



チャンギ空港 第4ターミナルビル (2017 シンガポール)



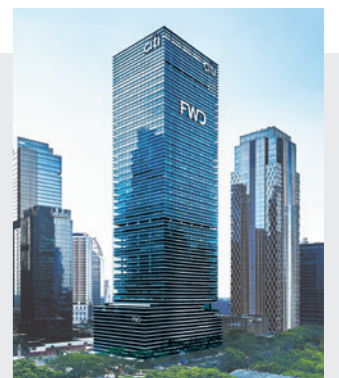
イオンモール ジャカルタガーデンシティ(2017 インドネシア)



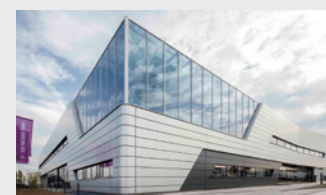
シンガポール国立美術館保存再生(2015 シンガポール)



キャピタグリーン
(2014 シンガポール)



パシフィック センチュリー プレイス
ジャカルタ(2017 インドネシア)



NEXENタイヤ ドイツテクニカル
センター(2018 ドイツ)



日清食品ハンガリー工場
(2017 ハンガリー)



コンチネンタルタイヤ タイ新工場
(2018 タイ)



無錫ヤクルト株式会社(無錫工場)
(2015 中国)



三菱電機エレベーター インド新工場
(2016 インド)



FCC グジャラート新工場
(2018 インド)



TOYOTA BUZZバンコク新本社
(2018 タイ)



ハマド国際空港 王族・国賓専用
ターミナル (2013 カタール)

まちづくりで新たな価値を創造する

東京都心部、名古屋駅前、大阪の梅田・中之島・阿倍野において当社は数々の都市再生プロジェクトの企画や設計、施工を手掛けてきました。また、市街地再開発事業やPPP/PFI事業、自社開発事業、まちづくり組織への参画なども積極的に行っています。当社はまちづくりへの様々な取り組みを通じて、国際競争力の強化、安全・安心の向上、環境共生など都市が抱える課題やニーズの解決に貢献しています。



【市街地再開発事業】

宇田川町14・15番地区第一種市街地再開発事業

駅周辺地区のまちの魅力向上に資する新たなタイプの都市再生特区提案の支援、特定業務代行者として再開発事業の推進、設計・施工、エリアマネジメント運営支援などを行い、2019年11月にオープンしました。渋谷の坂や通り、まちの界限性を建物外周部に立体街路として取り入れ、パルコならではの個性的な店舗や劇場、インキュベーション施設、先進的オフィス、広場などを有機的に連携させ、ファッション・アート・演劇文化、クリエイターの育成・情報発信拠点として、まちの新たなにぎわい創出に貢献しています。

渋谷 パルコ・ヒューリックビル
設計・施工=竹中工務店



【PPP/PFI事業】

みなとみらい21中央地区20街区MICE施設整備事業(2020年竣工)

本事業は、グローバルMICE戦略都市を掲げる横浜市が、国際会議で有名なパシフィコ横浜の機能強化を目的として新たにMICE施設(PFI事業)とホテル(民間収益事業)を複合的に整備・管理する事業者を募集したもので、当社は代表企業として2015年に当選を果たしました。豊かな歩行者ネットワークの整備やミナトヨコハマの景観形成など、まちづくりの視点からの期待も高く、オリンピックイヤーである2020年の春に竣工を迎えます。

※MICE: Meeting・Incentive・Convention・Event / Exhibition

MICE 設計=竹中工務店(JV) 施工=竹中工務店(JV)
ホテル 基本構想=竹中工務店



【国内開発事業】

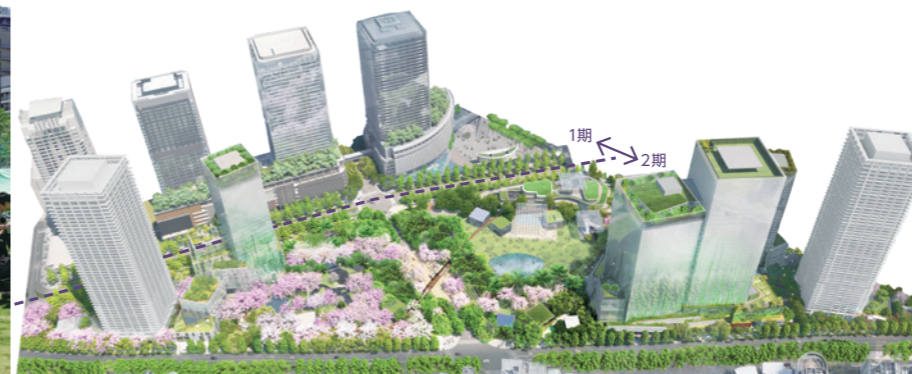
京都東山計画(山荘 京大和・パーク ハイアット 京都)

当社の自社開発として、開発から設計・施工・運営まで一貫して手掛けたプロジェクトです。2019年10月、京都の街と八坂の塔を同時に望むことができる絶好のロケーションに、70室のラグジュアリーホテルが誕生しました。「山荘 京大和」が引き続き料亭事業を行う歴史的建築物や庭園などを保存・復元することで、伝統と新しい文化を融合させてきた京都らしさを取り入れました。

設計・施工=竹中工務店 インテリアデザイン=トニーチー+竹中工務店
作庭=北山安夫



完成予想パース



完成予想パース

横浜市新市庁舎(2020年竣工予定)

横浜市の行政・議会機能に加え、文化芸術事業などが行える屋根付き広場を備える新市庁舎です。設計・施工者として基本設計から、開かれた市庁舎と新たな都市景観の創出に取り組むだけでなく、ワークショップやシンポジウムなどにより、市民の関心向上や地域貢献活動を行いました。

設計・監理=竹中工務店・横総合計画事務所
NTTファシリティーズ
施工=竹中工務店(JV)

グローバルゲート

名古屋駅から南へ1km、国際歓迎交流拠点「ささしまライブ24地区」の中核となる複合施設(オフィス、ホテル・コンファレンス・商業施設)です。2008年の事業コンペ当選以降、2017年10月オープンまで、企画・設計・施工の他、都市再生特区や環境アセスメントなどの行政協議、テナントリーシングのプロジェクト推進支援を行いました。

企画・設計・施工=竹中工務店

あべのハルカス・てんしば

高さ日本一の「あべのハルカス」と、近傍に完成した広大な芝生広場をもつ公園リニューアルプロジェクト「てんしば」は、周辺エリアに大きなインパクトをもたらしました。いずれも当社で企画支援、設計・施工したもので、エリア全体の集客と魅力の向上に貢献しています。

あべのハルカス
設計・監理=竹中工務店
外装デザイン=竹中工務店+ペリクラーク ペリアーキテクト
施工=竹中工務店(JV)
てんしば
設計・施工=竹中工務店

うめきた開発

JR大阪駅の北側で、1期・2期を合わせて区域面積24ha、総開発面積100万m²を超えるまちづくりを進めています。グランフロント大阪(1期)で当社は企画・設計・施工及び共同事業者としての役割を担いました。

グランフロント大阪(1期)

先行開発区域約7haで、延床面積約57万m²の大規模複合開発です。2013年に竣工しました。

基本設計=日建設計、三菱地所設計、NTTファシリティーズ
実施設計=日建設計、三菱地所設計、NTTファシリティーズ
竹中工務店、大林組
施工=竹中工務店(JV)

うめきた2期

開発事業者が、中央の都市計画公園(4.5ha)と民間宅地を一体的に整備・開発・運営する、新しいまちづくりプロジェクトです。

コンソーシアム
三菱地所、大阪ガス都市開発、オリックス不動産、関電不動産開発、積水ハウス、竹中工務店、阪急電鉄、三菱地所レジデンス、うめきた開発特定目的会社

大手センタービル

当社が東京・大手町に手掛けた開発事業プロジェクトです。利便性の高い立地条件を備え、大規模改修工事により、快適なビジネス環境を提供しています。

設計・施工=竹中工務店

400/430 California

米国サンフランシスコ市金融街の中心部に建つ本物件は、2018年からのランドマーク指定を受けた部分の保存・耐震改修を含む全面リニューアルという当社の特性を生かした「Value Add」型プロジェクトです。

写真のスケールは実際の建物とは異なります

お客様の課題に最適なソリューションを

市場変化に追従したスピーディーな対応、高度な建物環境、様々な安全・安心が求められています。当社は、お客様のニーズに対し、企画段階から計画・設計・施工・アフターケアまでトータルエンジニアリングでお応えします。



IoT分野への取り組み

IoTでモノがつながることで新たな価値を生み出す社会「Society 5.0」が提唱され、仮想空間と現実空間の融合でものづくり手法「デジタルツイン」が注目されています。「EQ House」ではコンピューショナルデザインによる自然採光と省エネルギーの最適化や、AIによるセンシングデータの学習と空間制御により将来のライフスタイルの実現を目指しています。当社開発の建物向けコミュニケーション基盤「ビルコム®」に、デジタルツイン情報を集約し、天気予報、電力単価、集客・混雑状況、居住する人の健康状態などの情報を解析することで、スマートビル・スマートシティの実現に貢献していきます。



IoTデータとAI学習で「最適自動運転」を目指すEQ House



スポーツ施設とまちづくり

当社は、大規模スタジアムから地域のアリーナまで多種多様なスポーツ施設を手掛けてきました。地域に根差したまちづくりの視点から当社は施設の建設にとどまらず、環境、IoT、防災など、様々なソリューションを提供しています。東京五輪の関連施設を含め、これらのスポーツ施設がレガシーとして長く快適に使われ続けるために、時代とともに多様化するニーズに応えていきます。

周辺地域に根差したスポーツ施設



東京ドームシティ

パナソニックスタジアム吹田

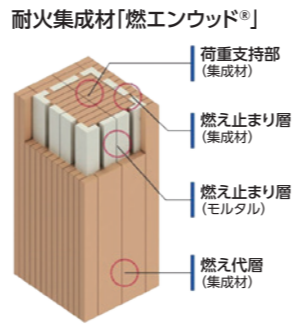


木造・木質建築

建物の木造化・木質化を進めることで建物のLCCO₂*を削減するとともに、木材利用による森林保全や地域経済活性化を促します。国内トップクラスの実績を誇る大規模・中高層木造建築の実績は、当社が開発した耐火集成材「燃エントッド®」(特許出願済)、CLT活用技術などの先進的な技術により実現されたものです。これからも、豊富なソリューションを通じて、お客様の事業やサステナブル社会の実現に貢献します。

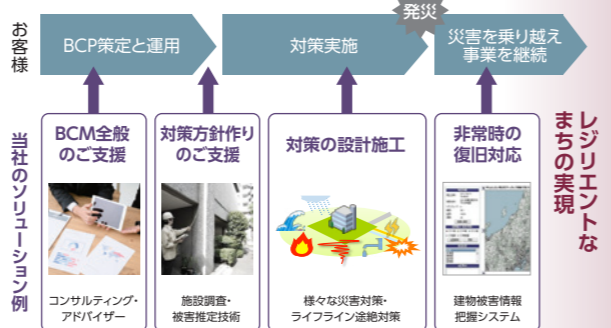
*建物の設計・施工・改修・解体に至るライフサイクルで費やすCO₂排出量

中高層木造建築のロードマップ



BCP・リスク対策

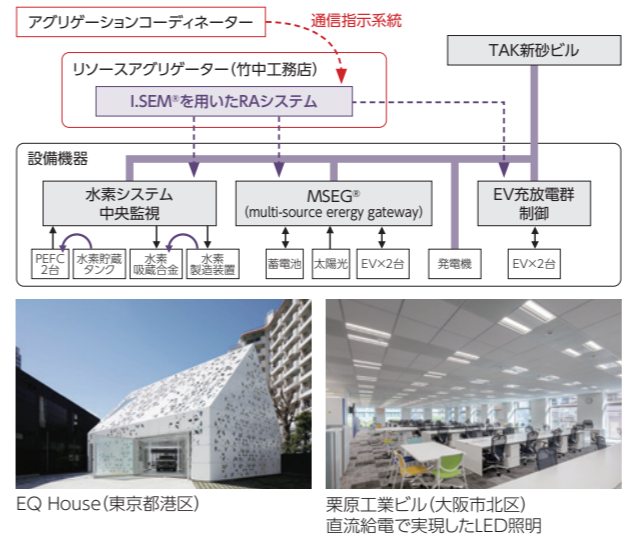
当社は地震、水害、火災、ライフライン途絶などの非常時だけでなく、セキュリティなど常時の対策を通じてお客様の事業や資産を守ります。加えて、BCP(事業継続計画)策定や教育・訓練を支援する体制を整えています。当社はおお客様のBCP・防災力強化の支援を通じ、レジリエントなまちづくりに貢献していきます。



エネルギー管理

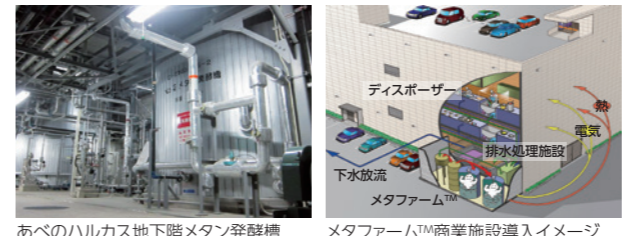
自社開発したエネルギー管理システムI.SEM®(アイセム)を核に「脱炭素モデルタウン」への技術実証を継続しています。経済産業省の仮想発電所(VPP)実証に参画し、蓄電池や発電機の統合制御に加え、水素の活用やEVの群制御などを実施しました。I.SEMはEQ Houseをはじめ、様々なプロジェクトに展開されています。

TAK新砂ビルで構築している仮想発電所(VPP)の構成



資源循環分野への取り組み

近年、SDGsへの貢献やサーキュラー・エコノミーの推進が企業に期待される中、資源循環分野の新技術が注目されています。生ごみを建物外に搬出することなくエネルギー化する「メタファーム™」は「あべのハルカス」に納入後、1日2トンの生ごみを安定的・経済的に処理しています。さらに1日1トンから対応できるようにシステムを改良したことで、適用範囲を拡大しました。今後も、リサイクル率向上・省CO₂を通じてお客様のニーズに応えます。

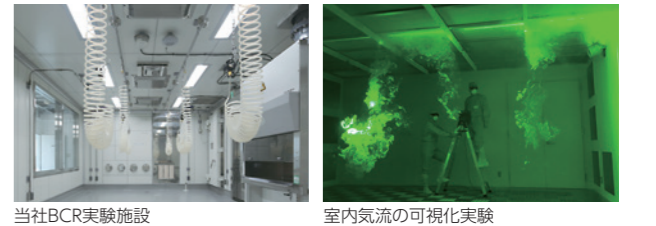


スマートバイオ最先端医療研究・製造施設

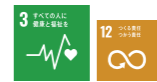
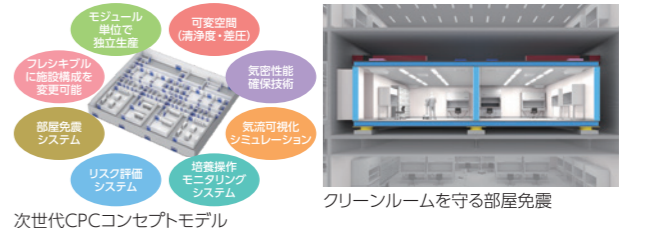
バイオ・再生医療の技術革新により、研究・製造施設には、研究内容や製造方式の変化への柔軟な対応と高い安全性が求められます。これらの変化に追従できるCPC*1コンセプトモデルのほか、クリーンルームを守る部屋免震を開発(特許出願済)しました。更に、BCR*2での実証実験に基づく最新技術を導入することで、最先端の研究・製造を支える施設を提供します。

*1: 細胞培養加工施設 *2: 当社技術研究所バイオクリーン・パイオセーフティ実験施設

バイオクリーン・パイオセーフティ技術



変化に追従できる安心安全な施設計画



放射線防護技術

近年、放射線利用施設の適用領域が拡大し、放射線防護などの技術は最新の医療分野に欠かせなくなっています。当社は、これらの技術開発にいち早く取り組み、リサイクル可能で環境にやさしい放射線遮蔽ボード(RadBoard®)(特許出願済)を開発しました。がんの早期発見に有効なPET施設の施工実績は国内トップクラスを誇るほか、最近では山形大学医学部東日本重粒子センターなどの重粒子線・陽子線治療施設の実現に積極的に取り組んでいます。



技術で未来を拓く

社会が求める環境、安全・安心、生産革新にかかわる最先端の技術開発と、イノベーションを指向した独創的なシーズ技術の研究開発を、竹中技術研究所を中心に推進しています。まちづくりのあらゆるステージでグローバルに先端技術・ソリューションを提供し、サステナブル社会を実現します。

竹中技術研究所

1953年に開設した竹中技術研究所は、常に時代のニーズを先取りした竹中グループ全体の新技术の創出と実証フィールドとして、お客様のニーズに応える価値を提供しています。建設にかかわる多様な専門分野の研究者が結集し、国内外の研究機関と連携しながら、最先端の研究を行っています。先進技術を身近に体感できる展示ゾーンには、お客様の課題解決と事業創出のヒントがあり、潜在的なニーズを掘り起こす情報発信の役割を担っています。当社は、設計・生産の高度化・効率化、安全・安心で活力・魅力あるスマートコミュニティの実現、まちや建物の環境負荷の低減、成長産業を支える高機能化を重点領域として、技術開発に取り組んでいます。



<https://www.takenaka.co.jp/rd>



竹中技術研究所

「新価値創造力の向上」を目指した新しい研究所へ

2019年、以下の2つのコンセプトを元に既存概念にとられないゾーニング・空間設計と最新の建築・設備・情報技術を適用し、オフィスエリアを大規模にリニューアルしました。新価値創造力を高めて社会課題に立ち向かい、お客様のあらゆるニーズを満たしていきます。

- ① **Creation** ～一人ひとりの創造性が高まる環境へ～
「家具・内装による多様性」と、「建築設計による多様性」を掛け合わせ、創造性を刺激する様々な空間を構築しました。
- ② **Innovation** ～オープンイノベーションを促進する環境へ～
外からの刺激によるイノベーションを目指して、課題の発見や解決策の創出につながる「深い対話の促進」と、「研究資源のオープンな活用」に適した環境を整備しました。



中庭を内部空間化し、ワークスペースの中央に配した大階段

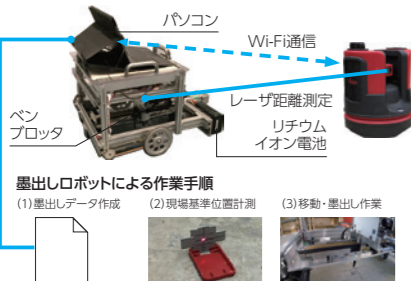


最新技術の展示ゾーン

自走式墨出しロボット(特許出願済)

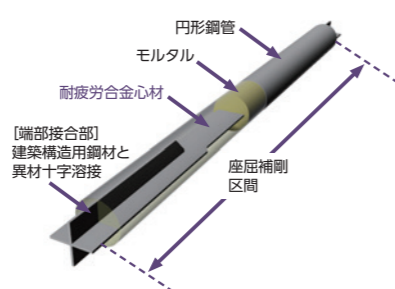
Wi-Fi環境下で、ロボットがレーザー測定機による位置情報を受信し、指定された地点まで自走して墨出し作業を行います。安価で軽量なのが特徴です。建設現場に積極的に適用することで、生産性を更に向上させます。

墨出しロボット(左)とレーザー測量機(右)



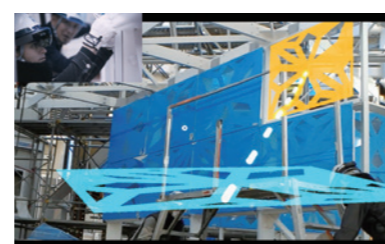
Fe-Mn-Si系耐疲労合金を用いた

ブレース型の制振ダンパー(特許登録済)
 既開発のパネル型ダンパーにブレース型を追加することで、建物の仕様やお客様のニーズに、より広範に対応できるようになりました。更に、合金の製造方法の見直しや溶接技術の確立により、大量生産を可能にしました。



MR技術による施工の生産性向上

近未来の建築を具現化した「EQ House」では、複合現実(MR)技術の活用で施工の効率化を図りました。一つ一つ形が異なる外装パネルに貼り付けた、二次元バーコードから読み取った取付位置の情報を実際の状況に重ねることで、手戻りを大幅に削減しました。



ヘッドマウントディスプレイからみた映像

国内主要グループ会社の事業活動

まちのライフサイクルのあらゆるステージにおいて、当社をはじめグループ各社は、お客様の多様なニーズにお応えします。

■ 竹中土木

人と環境にやさしいものづくり

竹中土木は竹中グループの土木分野を担う会社です。「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念を掲げ、社会資本整備を通じ、社会の発展と人々の暮らしが豊かになるよう努めています。また、「環境と共生する社会基盤の構築に努め、社会の持続的発展に貢献する」という環境方針のもと、環境保全・省エネ・都市再生・少子高齢化・高度情報化などの社会的要請に的確に応えるとともに、「人へのやさしさ」を視点に企業活動に取り組んでいます。「人と地球のかけ橋に」というコーポレートメッセージを全従業員が共有し、豊かで多様な暮らしと産業を支えるインフラ基盤の整備を中心に、サステナブルなまちづくりに向け歩んでいきます。



中部横断道 城山トンネル工事

■ 東京朝日ビルド

「誇りあるものづくり」をモットーに「最良の躯体・サービスを提供する」

東京朝日ビルドは、竹中工務店の企業内労働力確保を目的に、躯体工事を一貫体制で請負う専門工事会社として1972年に設立されました。現在も型枠・鉄筋を中心に技能工を継続的に育成し、PC(プレストレストコンクリート)、躯体改修、施工管理へも事業展開して、現場で培った経験と実績を基に計画段階から実施まで現場でのものづくりに貢献しています。また将来の担い手確保のため「工業高校出前授業」を行い、建築の魅力を広く伝える活動を展開しています。今後も竹中グループの成長を担う躯体工事パートナーとして、安定した生産力の確保、安全・品質・生産性の向上という現場の期待に応え、「最良の躯体・サービスを提供」し続けていきます。



社員で施工した自社独身寮のコンクリート打放し外壁

■ TAKシステムズ

建物データを司るプロ集団を目指しています

TAKシステムズは、CADで建築図を作成することを目的に1990年に設立されました。2020年には創立30周年を迎えます。当初はICTとCADオペレーションが主流でしたが、次第に生産設計機能まで分野を拡張し、最近ではBIMモデリングを担い全業務量の約40%を占めています。日本建築界の課題である生産性の向上に向けて、BIM推進の原動力としてグループの生産性向上に寄与していきます。建物の遺伝子として蓄積される建築データの提供を通じて、都市の発展やサステナブルな社会の実現を目指します。



LUMION Competition Japan 2018 最優秀賞
 M0c Villas [ムス・ヴィラ]
 竹中工務店+TAKシステムズ東京支店

■ アサヒ ファシリティズ

お客様の建物価値と安全を守る

アサヒ ファシリティズは、1969年の設立以来、まちのライフサイクルの中で建物管理を担い続けています。建物は、その機能を長期にわたって発揮してこそ優良な資産となります。お客様の建物の「価値」を向上させる最良のパートナーを目指し、建築及び設備の維持保全、警備、清掃などを提供するビルマネジメント事業をはじめ、不動産の収益を向上させるプロパティマネジメント事業、リスクマネジメントを担う保険代理事業と、高品質できめ細かなサービスを提供しています。これからも先進技術を活用した新たな価値を提供し、お客様にワンストップで最良のソリューションを迅速に提供する、ホスピタリティ溢れる企業として皆様からの信頼に応えていきます。



建築設備の日常点検

サステナブル社会実現に向けた活動実績

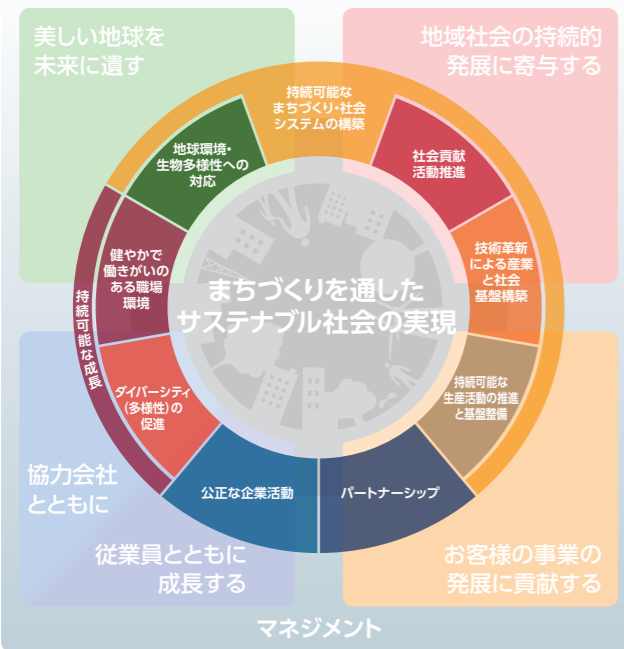
当社は、EcoVadis社による2019年のサステナビリティ評価において、最高ランクである「ゴールド」を取得しました。EcoVadis社は、約150か国、200業種のバイヤーとサプライヤーが登録する情報共有プラットフォームを通じて、サプライヤーのCSR評価をバイヤーに提供するサステナビリティ評価機関です。「環境」、「労働と人権」、「倫理」、「持続可能な調達」の4つの調査項目により企業の持続可能性を評価するもので、当社は全評価対象企業の上位5%に入る高い評価を受けました。



当社は、建築・まちづくりを通し、サステナブル社会を実現するため、「地球環境」「地域社会」「市場（お客様やユーザーの方々など）」「従業員」「協力会社」といったステークホルダーの期待に応えるための目標を「想い」という形で捉えています。この「想い」を実現するために、2017年に「グループCSRビジョン」及び「2025年のグループ成長戦略」を踏まえ、当社が企業活動（事業・非事業）を通じて取り組むべき課題を抽出するとともに、「CSR活動計画」として、25の実施方針に基づく目標及びKPIを設定しました。2019年は、3か年計画の最終年として、この目標及びKPI達成に向けた取り組みを進めました。この内容について、2019年の実績を示すとともにP37以降で主な活動について報告します。

今後は、「想い」を実現するため、重要課題（マテリアリティ）を踏まえて新たに設定した「サステナブル社会に向けた2020-2022年活動計画」（P15-16）へと進化させ、引き続き、ステークホルダーや有識者の方々やディスカッションさせていただきながら「まちづくり総合エンジニアリング企業」として、サステナブル社会の実現に貢献していきます。

ステークホルダーの想いをかたちにし、未来へつなぐための共通価値課題



※1 2019年目標・実績は「地域貢献活動数」を除いては竹中工務店単体の目標（「地域貢献活動数」は海外現地法人含む）
 ※2 2015年の国連サミットで採択された国際目標であるSDGsの目標と結び付きの強いものをアイコンで示す。
 ※3 2019年末現在の認定者総数。退職者は含まない。
 ※4 建築環境総合性能評価システム。評価指標によるランクは、「S（素晴らしい）」、「A（たいへん良い）」、「B+（良い）」、「B（やや劣る）」、「C（劣る）」の5段階。
 ※5 ZEBプロジェクトには、ZEB Orientedを含む。
 ※6 I. Smart Energy Managementの略称。電力デマンドを最適に制御することができる新しいエネルギー管理システムで、「I」は、Interconnection, Interoperability, Interface, Interactionなどの意味を示し、クラウドシステムが様々なハードウェア、ソフトウェアをつないで連携するコンセプトを表現している。
 ※7 2014-2016年の建種別の施工高と労務工数から求めた回帰式（2015年基準）に基づいた2017-2019年での基準労務総工数に対する実施労務総工数を指数換算した独自指標。
 ※8 休業4日以上災害発生率（1人親方等を含む）：100万延労働時間あたりの労働災害のうち、休業4日以上（死亡含む）の死傷者数。

CSR活動計画及び実績								
CSR/共通価値課題	実施方針	掲載	影響を及ぼすステークホルダー	指標 (KPI)	2019年 ^{※1}			対応する主要なSDGs ^{※2}
					目標	実績	評価	
持続可能な生産活動の推進と基盤整備	1. 対話による社会・まちの課題抽出と戦略の立案	WEB	●●	対話及び課題解決のための戦略立案領域数	社会レベル1領域以上 まちレベル3領域以上	社会レベル: 継続1領域、新規2領域 まちレベル: 継続7領域、新規2領域	○	9, 11
	2. 課題解決のためのイノベーション推進と基盤の構築	WEB	●●	—	活動の実践	社会システム構築に向けた活動の推進	—	9, 11
	3. 品質づくり込みの仕組みと教育体制の強化	P37	●	教育計画実施率	100%	100%	○	4, 5, 8
	4. 公衆災害の防止と地域環境への配慮	P38	●●	重大な公衆災害件数	0件	0件	○	12
	5. 建設副産物の発生抑制・再資源化	P38	●	新築工事の混合廃棄物排出率（容積比）	15%以下	13.9%	○	12, 14, 15
	6. グリーン調達の推進	WEB	●	重点グリーン調達品目9品目以上達成プロジェクト比率	87%以上	設計段階 91.5% 施工段階 91.9%	○	13, 15
	7. 健全で魅力的な建設産業の基盤構築	WEB	●●	—	竹中マイスター認定の継続的な実施	竹中マイスター認定者総数 ^{※3} 608名	—	—
	8. 環境配慮設計と省エネルギーの推進	P39	●●	CASBEE ^{※4} (S-A)比率 ZEBプロジェクト件数 ^{※5} I.SEM ^{※6} 採用プロジェクト件数	70%以上 5件以上 4件以上	89.2% 8件 2件	△	7, 13, 15
	9. サプライチェーン全体でのCO ₂ 排出削減	WEB	●●	—	具体策を伴う目標の設定と情報の開示	長期目標及び施策の決定	—	13, 15
	10. 生物多様性への取り組みの推進	P39	●●	—	「竹中生物多様性促進プログラム」の推進	「竹中生物多様性促進プログラム」の推進	—	13, 15
社会貢献活動の推進	11. 建築文化・技術の伝承と社会や地域への貢献	P40	●●●	地域貢献活動数	200件以上	311件	○	4, 11
	12. まち・建築の強靱化を中心とした技術開発と展開	WEB	●●	—	先進技術の開発とパイロットプロジェクトへの適用	技術開発の完成とパイロットプロジェクトへの適用	—	9, 11, 15
	13. 木造・木質建築の普及と国産木材活用の推進	P41	●●	採用プロジェクト件数	9件以上	11件	○	9, 11, 15
	14. プロセス全体のイノベーションによる労働生産性の向上	P42	●●●	労働生産性指数 ^{※7}	6.0%向上(2015年基準比)	12.31%向上	○	9, 11, 15
健やかで働きがいのある職場環境の実現	15. 抜本的な生産性向上によるワークライフバランスの改善	WEB	●●	—	実施事項フォロー	従業員満足度3.6	—	3, 8, 9
	16. 従業員の成長とマネジメント力の向上を目指す教育・支援	P43	●	—	マネジメント教育に関する方策の実施	研修内容・構成の見直し マネジメント教育の実施	—	3, 8, 9
	17. 安全で衛生的な作業所の職場環境確保	WEB	●●	休業4日以上の災害発生率 ^{※8}	0.60以下	0.54	○	8, 9
	18. 健やかな心身を育む健康経営の促進	WEB	●●	—	健康経営度調査総合評価点500点以上	健康経営度調査総合評価点550.4点	○	3, 8, 9
ダイバーシティ(多様性)の促進	19. 女性やシニア層などの活躍促進	P43	●●●	女性役付職比率 けんせつ小町活動状況 再雇用契約締結率	4.1%以上 継続実施 80%以上	4.1% 40件が登録 86.4%	○	5, 10
	20. 内部統制の維持・強化	P44	●	—	—	企業行動規範・浸透周知	—	—
公正な企業活動	21. CSR・コンプライアンスの推進	P44	●	重大なコンプライアンス違反	0件	0件	○	10, 16
	22. 人権尊重の取り組みの推進	P45	●●●●	—	人権デュー・ディリジェンスに基づく方策の展開	人権デュー・ディリジェンスに基づく施策及びレビューの実施	—	—
	23. 情報セキュリティの強化	P45	●	情報漏えい件数	0件	0件	○	16
	24. 災害時対応体制の整備・強化	P45	●●	—	BCP計画の継続的改定及び各種訓練の実施とフォロー	合同防災訓練の実施及び連携体制の確認	—	—
パートナーシップによる目標の達成	25. 対話による社会課題の把握及び方針・施策の確認	WEB	●●●●	対話及び施策・方策の立案数	対話 3件 立案 2件	○	17	

● 地球・地域社会 ● 市場 ● 従業員 ● 協力会社

※定量的な目標のみ評価(○・△・×)を実施

持続可能なまちづくり・社会システムの構築

持続可能な生産活動の推進と基盤整備

当社が建築活動を通して社会の課題を解決し、社会から信頼を得て持続的に成長し続けるために、品質の確保や災害の防止、地域社会や地球環境への配慮と、建設産業としての基盤整備を進めています。

(方策1・2) (方策6・7)

詳細はWEBに掲載

① <https://www.takenaka.co.jp/enviro/objectives/01/>
 方策1 対話による社会・まちの課題抽出と戦略の立案
 方策2 課題解決のためのイノベーション推進と基盤の構築

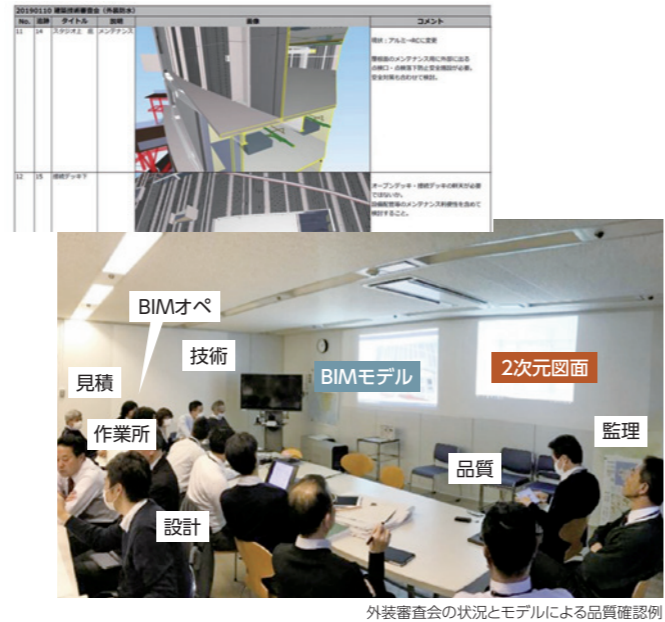
② <https://www.takenaka.co.jp/enviro/objectives/02/>
 方策6 グリーン調達推進
 方策7 健全で魅力的な建設産業の基盤構築
 ※詳しくはWEBを参照ください。

方策3 品質づくり込みの仕組みと教育体制の強化

KPI: 教育計画実施率

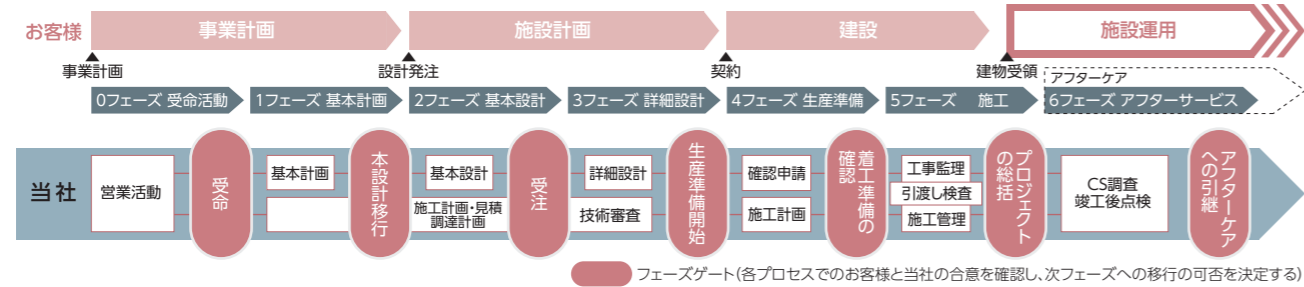
実績: **100%** (目標: 100%)

● 施工状況を踏まえた設計段階からの「品質づくり込み」
 設計施工一貫のメリットを生かし、設計段階から生産部門や主要協力会社が品質確保のためのづくり込みに参画しており、この業務フローを品質保証体系として標準化 (ISO9001取得) しています。基本設計から作業所長予定者を決定して構工法の決定に参画、詳細設計から施工図を主管するプロダクト部も加わって、施工手順や協力会社の施工図情報などを設計図に反映し、施工ノウハウを含めた品質をつくり込んでいます。更に、全プロジェクトで活用をはじめたBIMにより、躯体と設備の取り合い、鉄筋の納まりや、排水経路など、プロジェクト関係者が同一モデルで設計段階から施工までの品質確認をはじめています。



外装審査会の状況とモデルによる品質確認例

品質保証体系図



● 「品質づくり込み」教育

品質をつくり込むプロセスを伝承するため、技術実務研修センター「想」で、現物を使った職能別・階層別の教育を行っています。2018年には、PCa造・鉄骨造・免震装置などを複合したハイブリッド構造、「燃エンウッド®」・CLT*といった木構造の実大モックアップを増設し、最新の構工法にも「見て・触れて・体得」できるプログラムを追加しました。敷地内にCLT宿泊棟も増築し、研修時に森林資源を利用した木造・木質建築への宿泊体験もできるようにしています。

*CLT:直交集成板 (Cross Laminated Timber)。ひき板 (ラミナ) を並べた後、繊維方向が直交するように積層接着した木質系材料



ハイブリッドモックアップ研修状況

方策4 公衆災害の防止と地域環境への配慮

KPI: 重大な公衆災害件数

実績: **0** 件 (目標: 0件)

公衆災害の発生は、第三者や地域社会へ多大な影響を及ぼします。特に、周辺の交通量が多い作業所では、生コン車などの路上駐車が交通事故を誘発する可能性があり、渋滞の原因ともなります。東京本店では、東京五輪を前に予想される港区の交通渋滞の緩和と、「2020TDM (交通需要マネジメント) 推進プロジェクト」への協力も踏まえ、搬入車両の一時待機場所「TAK-station」を設置しました。これにより、区内の作業所の路上駐車を防止し、交通事故の発生を防いでいます。



待機を終え「TAK-station」から出る搬入車両

方策5 建設副産物の発生抑制・再資源化

KPI: 新築工事の混合廃棄物排出率 (容積比)

実績: **13.9%** (目標: 15%以下)

作業所の分別徹底と3R活動*により、建設廃棄物の最終処分量削減に継続的に取り組んでいます。具体的な方策として、2017年からは特に徹底した分別教育などにより、混合廃棄物の排出抑制を強化しています。その結果、2019年度の建設廃棄物リサイクル率 (容量比) は92.0%でした。

*3R活動:削減 (リデュース)・再利用 (リユース)・再生 (リサイクル) による廃棄物削減活動

● 廃プラなどマテリアルリサイクルの推進

凸版印刷深谷工場実装工事の作業所では、マテリアルリサイクルの強化を目標に掲げ、発生する産業廃棄物の組成を確認して分別品目を細分化、工事の進捗ごとに見直しました。特に廃プラスチックについては塩ビ管・硬質プラ・包装ビニールなど細かく分け、新たなリサイクルルートを開拓しました。また、分別ルールが一目でわかる産廃ヤードの工夫や、改修前・後

のリユースチェックリストの作成・活用などに取り組み、マテリアルリサイクル率86.0% (目標80%以上)、トータルのリサイクル率は99.0% (目標95%以上) を達成しました。この活動は、2019年、3R推進功労者等表彰の国土交通大臣賞を受賞しました。



新規マテリアル分別項目を協議

細分化したBOXを設置



グループ会社の取り組み 東京朝日ビルド

出前授業で「ものづくりの魅力」を次世代へ

躯体工事の専門会社である東京朝日ビルドでは、次世代の人材育成に力をいれています。その一環として、2014年から毎年、卒業生を含む社員が講師として工業高校を訪問し、鉄筋・型枠工事を実演し、学生に実体験させる「出前授業」を実施しています。当活動を通じて次代を担う若者たちに「ものづくりの魅力」を直接伝え、楽しみながら建築業界への関心を深めてもらうとともに、「誇りあるものづくり」の大切さと楽しさを次世代へ伝えていきます。



工業高校での出前授業の様子

地球環境・生物多様性への対応

「環境方針」のもと、環境メッセージ「人と自然をつなぐ」とカーボンニュートラルな社会を目指す「環境コンセプト」を掲げ、ISO14001に準拠した環境マネジメントシステムに則って環境貢献活動を推進しています。

詳細はWEBに掲載
<https://www.takenaka.co.jp/enviro/objectives/03/>

方策9 サプライチェーン全体でのCO₂排出削減
 ※詳しくはWEBを参照ください。
 建設副産物についてはP38に記載しています。
 今後の活動についてはP17をご参照ください。



方策8 環境配慮設計と省エネルギーの推進

KPI: ZEBプロジェクト件数

実績: **8件** (目標: 5件以上)

省エネルギー設計と再生可能エネルギーの活用により、ZEB(ゼロエネルギー・ビル)プロジェクトの普及に取り組んでいます。

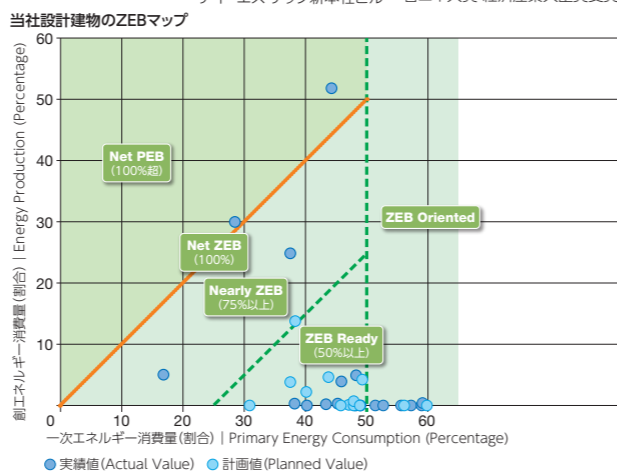
● ティ・エス テック新本社ビル

「手の届くZEB」として2018年3月に完成し、BELSの「Nearly ZEB」を取得、1年間の運用実績で、設計値を上回る86.9%の一次エネルギー消費量削減を達成しました。汎用技術による設計と運用で、中小規模ビルのZEB化が経済的に達成可能であることを実証した点が評価され、2019年度省エネ大賞の省エネ事例部門で経済産業大臣賞を受賞しました。

● 新深江竹友寮

2019年9月に建て替えが完了した当社の独身寮では、リビングのシェアを柱として住まい方と省エネルギーを計画し、当社設計の集合住宅で初めて、「ZEH-M Ready」を取得しました。

この他、学校・物流施設、展示場など、様々な建種でZEBプロジェクトを拡大しています。



方策10 生物多様性への取り組みの推進

KPI: —

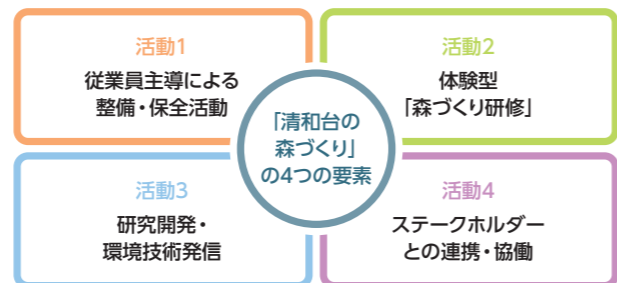
実績: 「竹中生物多様性促進プログラム」の推進

当社では、2012年に制定した「生物多様性活動指針」を具現化する取り組みとして「竹中生物多様性促進プログラム」を策定しています。その一環として、「日本一の里山」と言われる兵庫県川西市黒川地区に近接する「竹中研修所」の敷地を生かした「清和台の森づくり」活動を実践しています。



清和台の森づくり研修

「清和台の森づくり」は4つの活動から構成されています。活動2の「森づくり研修」では、専門家や地元市民団体・企業と連携し、全国の従業員から参加を募り、「森づくり研修」を継続的に実施しています。「日本一の里山」から学ぶ「森づくり研修」を通して、ワークライフバランスの取れた魅力的で創造的な仕事を生み出すとともに、広く社会課題を解決できる「次世代リーダー」の育成に力を入れています。今後も「まちづくり総合エンジニアリング企業」を目指して、社会に貢献できる「森づくり」を進めます。



社会貢献活動の推進

活動方針「飛び出そう、地域社会へ」をスローガンに、地域の様々なステークホルダーと連携し、地域貢献活動を行うとともに、社会起点的感性をもつ社会課題解決の担い手を育み、次世代を担う人材の育成と地域の発展に努めてまいります。

詳細はWEBに掲載
<https://www.takenaka.co.jp/enviro/objectives/04/>



方策11 建築文化・技術の伝承と社会や地域への貢献

KPI: 地域貢献活動数

実績: **311件** (目標: 200件以上)

● 地域教育活動への支援

名古屋支店の島田市民病院の作業所では、地元の工業高校美術部の生徒にウォールアートの制作を依頼し、仮囲いに掲示しました。観光名所とお祭りを組み合わせた色鮮やかなデザインが、多くの来院者の目を楽しませていました。大阪本店では、大阪市立新築中学校の2年生8名が、当社のSDGsの取り組みをヒアリングするため来社。環境対策や開発による賑わい創出について説明し、建物やまちづくりへの理解と興味を深めてもらいました。



高校生によるウォールアート 中学生がSDGsの取り組みをヒアリング

● 地域との交流と貢献

宮城県石巻市で、今回で8回目となる震災復興イベント「子どものまち・いしのまき」を開催。当社の建築家体験ブースで住みたい部屋を模型で作ったり、大きなくじらを自分の手のひらで描くなど、多くの子どもたちを楽しんでもらいました。また、同市門脇町の「子どもたちが描くみんなの公園ワークショップ」の活動が、キッズデザイン賞「経済産業大臣賞」を受賞しました。大阪市内では今回で6回目を迎えた日本最大級の建築イベント「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2019」が開催され、当社大阪本店では大工さんが指導する「お箸づくり体験」や、VRなどを使った体験コーナーで最新技術に触れてもらい、建築の魅力を伝えました。



五感レスポンス*を楽しみ子どもたち

● 公益財団法人への活動支援

当社は、3つの公益財団法人の活動支援を通じて、「伝統技術の現代・未来への伝承」(竹中大工道具館)、「現代の建築文化の社会への発信」(ギャラリーエークウッド)、「未来の社会を担う人材の育成」(竹中育英会)を柱とした、過去・現在・未来をつなぐメセナ事業、育英事業を展開しています。



ギャラリーエークウッド「陸の海ごみ」

● 「聴竹居」(重要文化財)の公開

完成から90年を過ぎた聴竹居(京都府大山崎町)は、当社に在籍していた故・藤井厚二が建てた自邸で、昭和初期の代表的な木造モダニズム住宅です。地元の方々との建物公開や、建築文化の発信が評価され、2019年、「メセナ大賞」を受賞しました。



聴竹居* 地元の方々による見学者へのガイド



技術革新による産業と社会基盤の構築

社会が求める環境、安全・安心、そしてものづくりの精神に最新のテクノロジーを融合し建設生産を革新する最先端の技術開発にチャレンジしています。

詳細はWEBに掲載

https://www.takenaka.co.jp/enviro/objectives/05/

方策12 まち・建築の強靱化を中心とした技術開発と展開
※詳しくはWEBを参照ください。



方策13 木造・木質建築の普及と国産木材活用の推進

KPI: 採用プロジェクト件数

実績: **11**件 (目標: 9件以上)

当社は、耐火集成材「燃エンウッド®」や、様々なCLT(直交集成板)利用技術などを開発し、これらを活用して木造・木質建築の普及と国産木材の活用に取り組んでいます。また、木材の利用促進により、山林の保全・活性化とともに林業・地域の活性化を図り持続可能な木材利用を目指す「森林ランドサイクル®」を提唱し、活動しています。

● PARK WOOD高森

2時間耐火の「燃エンウッド®」、CLT耐震壁・CLT床によって実現した、日本初の10階建て木造ハイブリッド構造*の集合住宅で、合計約120m³の木材を使用、令和元年度木材利用優良施設コンクール林野庁長官賞、ウッドデザイン賞2019最優秀賞(農林水産大臣賞)を受賞しました。

*木造ハイブリッド構造: 主要構造に、木造と鉄骨構造あるいは鉄筋コンクリート構造を組み合わせた混構造

当プロジェクトの実施にあたっては、林業者と共同した勉強会を重ね、木材を直接購入することで林業者に適正な利益を還元する仕組みを構築し、伐採後の再植林に当社も参加するなどの取り組みを行いました。また、セミナー開催や様々なイベントなどを通じて、木の魅力を広く伝える活動も行っています。



伐採跡地への植林活動



● 2019年に竣工した主な木造・木質プロジェクト



PARK WOOD高森



兵庫県林業会館



アサヒ ファミリティス山門町葵寮



甲南医療センター

方策14 プロセス全体のイノベーションによる労働生産性の向上

KPI: 労務生産性指数 (2015年基準比)

実績: **12.31%**向上 (目標: 6.0%向上)

急速に進む技能労働者の減少に対し、設計段階から生産部門や協力会社が参画して、生産性の高い構工法を盛り込んでいます。しかし、在来工法との取合いに手間のかかる部分、ロボット化しても技能者が施工する部分が残るケースがあり、当社では、こうした部分についても省人化技術を開発し、現地作業の更なる最小化を図っています。

● 梁の鉄骨化/PcCa化工法における柱取合い部の生産性向上
柱を低コストの鉄筋コンクリート造、梁を施工性の高い鉄骨造とした構工法は、両者を合理的に組み合わせた構工法ですが、柱と梁の接合部の施工に手間がかかっていました。当社ではこの部分を鉄板で囲い、鉄筋と型枠作業を不要とした「T-ReCS構法® (T-レックス構法)」(特許出願済)を開発しました。更に鉄骨建方をユニット化することで、大幅な生産性向上を実現しています。

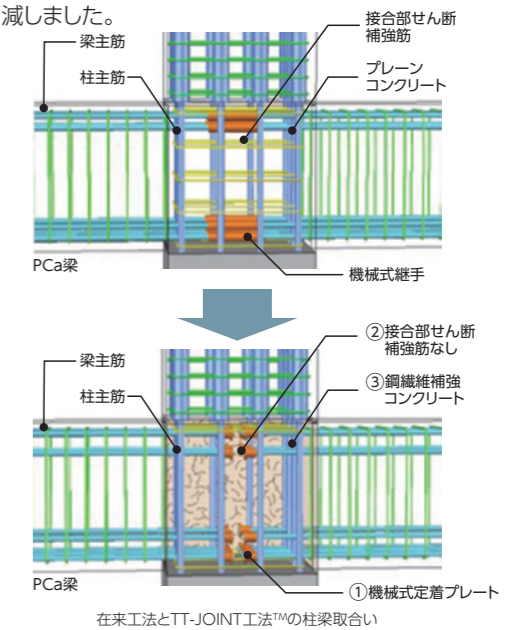


T-ReCS構法®の柱梁取合い



柱梁取合い含む一体ユニットの地組み

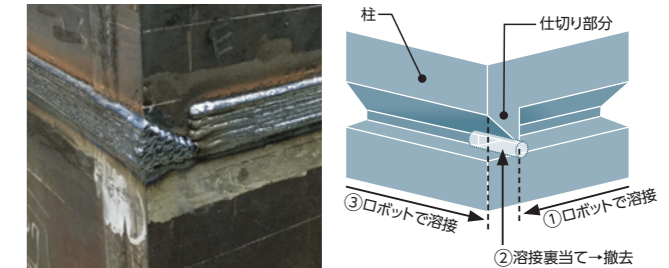
梁を工場でPcCa化するケースでも、柱との接合部に多くの手間がかかっています。当社は、①鉄筋接合の代わりに定着プレートを設置、②柱の補強筋を無くし、③鋼繊維を混入した高強度コンクリートを打設する「TT-JOINT™」工法(特許登録済)を開発しました。これにより、PcCa梁と柱の接合部の作業を大幅に削減しました。



在来工法とTT-JOINT工法™の柱梁取合い

● 鉄骨柱ロボット溶接における熟練技能者の省人化

角形鉄骨柱のロボット溶接工法の多くは、ロボット溶接同士がぶつかる部分の品質確保が困難なため、四辺の溶接後、角部は熟練技能者が行っています。当社では、溶接同士の「仕切り」を設け、角まで全てロボットで溶接できる工法を開発しました。こうした創意工夫により、更なる生産性向上を図っています。



鉄骨柱ロボット新溶接工法の詳細

グループ会社の取り組み 竹中土木

建設プロジェクトにおける生産性向上への取り組み

竹中土木では、国土交通省の「ICTの全面的な活用」関連技術へ取り組んでいます。徳島県の高速度道路工事では、着工前のドローン測量の結果と3次元設計データの比較により、不具合や納まりを確認。施工はGNSS測量機器やマシンガイダンスバックホウなどの活用、出来形検査はドローンやレーザースキャナーを用いた面的管理により、従業員の労力削減と作業効率向上を実現させています。これからもi-Constructionの推進による生産性向上など、魅力ある建設業を目指していきます。



マシンガイダンスバックホウ

持続可能な成長

従業員が向上心や先見性を持ち、多様な人格・個性が尊重され、安全で働きやすい環境づくりを進めていくために、従業員や協力会社との対話をはじめとした活動を通じて、課題の共有と解決を行っています。

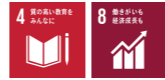
健やかで働きがいのある職場環境の実現

従業員が心身ともに充実した状態で働ける風土を醸成するために、一人ひとりが能力を高め生かせる職場環境の実現を目指しています。

詳細はWEBに掲載
<https://www.takenaka.co.jp/enviro/objectives/06/>
 方策15 抜本的な生産性向上によるワークライフバランスの改善
 方策17 安全で衛生的な作業所の職場環境確保
 方策18 健やかな心身を育む健康経営の促進
 ※詳しくはWEBを参照ください。



方策16 従業員の成長とマネジメント力の向上を目指す教育・支援



KPI: — 実績: 研修内容・構成の見直し マネジメント教育の実施

当社では、入社後1年間、新社員寮で生活しながら複数部門のOJTなどを体験することで、人間としての成長と、当社の伝統精神、プロフェッショナルとしての知識や心構えを身につける教育を実施しています。2019年には「新しい未来をつくる人を育てる教育寮」として、深江竹友寮の建替と教育プログラムの再編を行い、ハード・ソフト両面からの充実を進めています。また、役割の意識付けやマネジメント能力を強化するための階層別教育により、社会環境や経営戦略に合わせた人材育成を推進していきます。



2019年竣工の新深江竹友寮内に交流を深める場として設置した「メインクラスター」

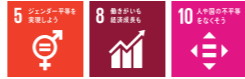
ダイバーシティ(多様性)の促進

「対話」と「自分事化」を合言葉に、個々の個性、多様性に依りて能力が遺憾なく発揮できる、働きやすい職場環境を目指し取り組んでいます。

詳細はWEBに掲載
<https://www.takenaka.co.jp/enviro/objectives/07/>



方策19 女性やシニア層などの活躍促進



KPI: 女性役付職比率 実績: 4.1% (目標: 4.1%以上)

当社では女性活躍の促進・職域拡大に取り組んでおり、次期リーダー選抜型研修の実施、けんせつ小町工事チームの活動推進、作業所での女性活躍環境づくりを継続的に行っています。育児と仕事の両立支援においては、育児休業からの早期復職をサポートするため、2019年に保活コンシェルジュサービスの提供、企業主導型保育園の企業利用枠の提携、育児休業制度の一部改定など、子育て支援制度の拡充を図りました。シニア人材の活躍を目的とし、2018年より再雇用制度を見直し、処遇の改善・複数年契約の締結とともに、再雇用の際に自身のキャリアや知識スキルを整理するサポートプログラムを開始しています。



けんせつ小町チーム[ATG54]

公正な企業活動

当社は企業理念のもと「品質経営」を実践し、お客様の満足や社会からの信頼を得て、企業としての社会的価値を高めていくとともに、社会的責任を果たしていきます。



詳細はWEBに掲載
<https://www.takenaka.co.jp/enviro/objectives/08/>
 パートナーシップによる目標の達成
<https://www.takenaka.co.jp/enviro/objectives/09/>
 方策25 対話による社会課題の把握及び方針・施策の確認
 ※詳しくはWEBを参照ください。

方策20 内部統制の維持・強化



KPI: —

実績: 企業行動規範の周知・浸透

内部統制基本方針に基づき、コンプライアンスを含むCSR活動の推進やリスク事象発生時の危機回避・軽減及び平時における危機管理活動の推進など、全社的な体制整備や啓発・訓練を実施しています。また、グループ会社についても、当社に準拠した企業行動規範に基づき、管理体制を整備し、この行動規範を実践することを指導しています。

企業行動規範	
第1条	お客様満足とまちづくりを通じた持続可能な社会の実現
第2条	法令及び社会規範の遵守
第3条	情報の開示及び保護
第4条	人権の尊重
第5条	働きやすい職場環境の実現
第6条	地球環境への貢献
第7条	社会への貢献
第8条	危機管理の徹底
第9条	国際規範の尊重と各国・地域への貢献
第10条	実施体制の整備と違反への対応

方策21 CSR・コンプライアンスの推進



KPI: 重大なコンプライアンス違反件数

実績: 0件 (目標: 0件)

● CSR・コンプライアンス体制を構築し、啓発活動を継続実施
 CSR・コンプライアンスを向上させる体制として、P46に示す体制のとおり、各種委員会、専任部門を設置しています。また、グループ各社には推進責任者を配置し、協力会社も対象にした相談・通報窓口を整備しています。教育・啓発活動では、グループ全てを対象とした各種研修の実施、毎月の「CSR・コンプライアンスニュース」の配信、毎年の強化月間ではセルフモニタリング形式のクイズ、身近な話題をテーマにした職場ミーティング、役員向けのCSRセミナー等、様々なプログラムを実施しています。



CSR・コンプライアンスニュース

● 建設業法遵守への取り組みを継続

法令遵守に基づいた適切な企業活動を実践するために、各種法令の周知・徹底に努めています。国の定める「建設業取引適正化推進月間」には、協力会社に対しても法令遵守の周知・徹底を行いました。



SDGsをテーマとした「CSR役員セミナー」

● 適切な調達に向けた取り組み

当社は企業の社会的責任の一環として、「お取引先と一体となり社会・お客様ニーズに応える調達を推進する」とした「調達方針」及び「活動方針」を定め、取引先にも方針に基づいた具体的実施事項をお願いしています。



全国竹和会総会における調達方針・活動指針の説明

方策22 人権尊重の取り組みの推進



KPI: —

実績:人権デュー・ディリジェンスに基づく施策及びレビューの実施

2018年9月1日に人権方針を制定し、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき、当社の「企業理念」及び「企業行動規範」に従って、人権尊重に向けた取り組みを具体化し、事業活動において推進を図っています。

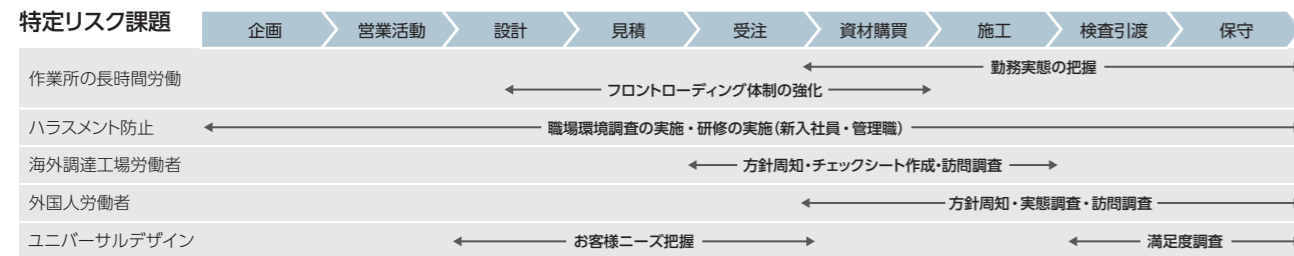
2019年は前年のリスクの特定・評価と対応策を踏まえ、施策の立案・実施に取り組みました。10月には、課題の一つである外国人技能実習生の実態を調査すべく、取引先でもあるグループ会社を訪問し、国内の受入機関の職員の方々と実習生と対話する機会を設けました。12月には、ロイドレジスタージャパン株式会社の富田秀実氏から、当社の実施状況に対して、重要なステークホルダーとの対話、違った視点からの分析など様々な示唆をいただきました。今後の活動に反映させ、取り組みを継続していきます。



外国人実習生に関する対話



人権活動レビューの実施



方策23 情報セキュリティの強化

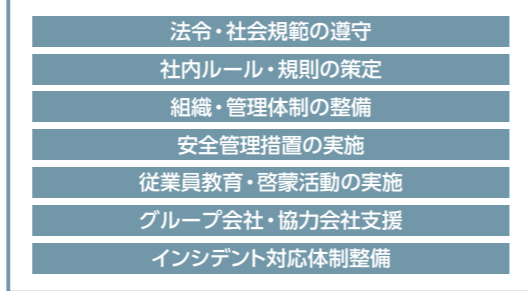


KPI: 情報漏えい件数

実績: 0件 (目標: 0件)

当社はお客様の大切な情報資産を守るための情報セキュリティ活動を推進しています。特に最近のサイバー攻撃の脅威拡大を受け、社外からの攻撃や不正侵入による情報漏えいを未然に防止するため、eラーニングや標的型攻撃メール訓練を通じて、海外も含めた竹中グループ全社、全従業員の教育・啓蒙活動に力を入れています。

情報セキュリティの7本柱



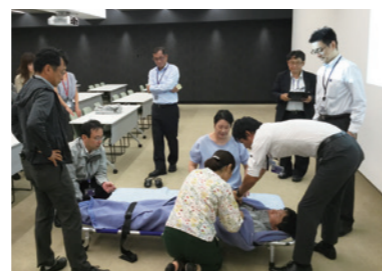
方策24 災害時対応体制の整備・強化



KPI: —

実績:合同防災訓練の実施及び連携体制の確認

当社は、巨大地震の発生を想定し、災害対策本部を設置して、従業員・家族の安否確認、各事業所・稼働作業所・竣工建物の被災状況確認・復旧などを全社的に行うBCPを策定しています。2019年は、初期対応の訓練として、8事業所を対象に災害シミュレーション訓練を、また、各本・支店の地域性を踏まえた震災実動訓練を実施し、併せて、全社連携体制を確認する合同対策会議訓練を実施しました。これらの訓練には、グループ会社17社を含めた約12,000名の従業員が参加しました。今後もBCPのスパイラルアップを図り、有事の際の具体的な行動につなげていきます。



負傷者救護訓練

コーポレート・ガバナンス

組織統治 — 経営の質の向上と、迅速で的確な意思決定を行うガバナンスの充実

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社では、「企業活動全体の質」の改善向上活動に取り組み、広くお客様や社会から信頼を得て、社会的価値を高めるという考えのもと、コーポレート・ガバナンス体制を構築し、その適正な運営に取り組んでいます。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

● 取締役会・執行役員制度

経営に関する意思決定及び業務執行の監督機関として、取締役会を毎月1回、その他必要に応じて開催しています。また、経営意思決定の迅速化と事業執行機能、監督機能の強化を図るため、2010年より執行役員制度を導入しています。執行役員は、取締役会が決定した経営方針に基づく業務執行権限を委譲され、取締役の監督のもとで経営方針に従い、業務執行にあたっています。

● 監査役会

社外監査役2名を含む4名で組織されており、監査役は取締役会に出席するなど、取締役の職務執行を監査しています。

● 企業倫理中央委員会

社会規範及び法令遵守の推進をより一層図るため、社長を委員長とする「企業倫理中央委員会」を新設しました。これまで活動してきた「コンプライアンス委員会」「危機管理委員会」と併せて一体的な活動により、コーポレート・ガバナンス体制を推進しています。

● コンプライアンス委員会

コンプライアンス分担役員を委員長として、コンプライアンスに関する教育啓蒙と再発防止策の指導徹底を行います。

● 危機管理委員会

代表取締役を委員長として、自然災害をはじめとするリスク事象における迅速・的確かつ誠実な対応を行うとともに、平時における危機管理活動を推進しています。

● 監査室

経営活動に関する自己統制手段である内部監査組織として監査室を設置し、会社の業務、会計及び財産の実態について、その正確性・妥当性の確認を行っています。

● CSR推進部

本社のCSR推進部を設置し、コンプライアンス教育を推進しています。竹中グループ全体にわたり各事業所にCSR・コンプライアンス推進責任者、CSRコンプライアンスリーダー、コンプライアンス責任者、コンプライアンス・(サブ)リーダーを任命し、教育・啓蒙の推進役としています。CSR推進部は地球環境を含む社会課題への取り組みを含めて活動を行っています。

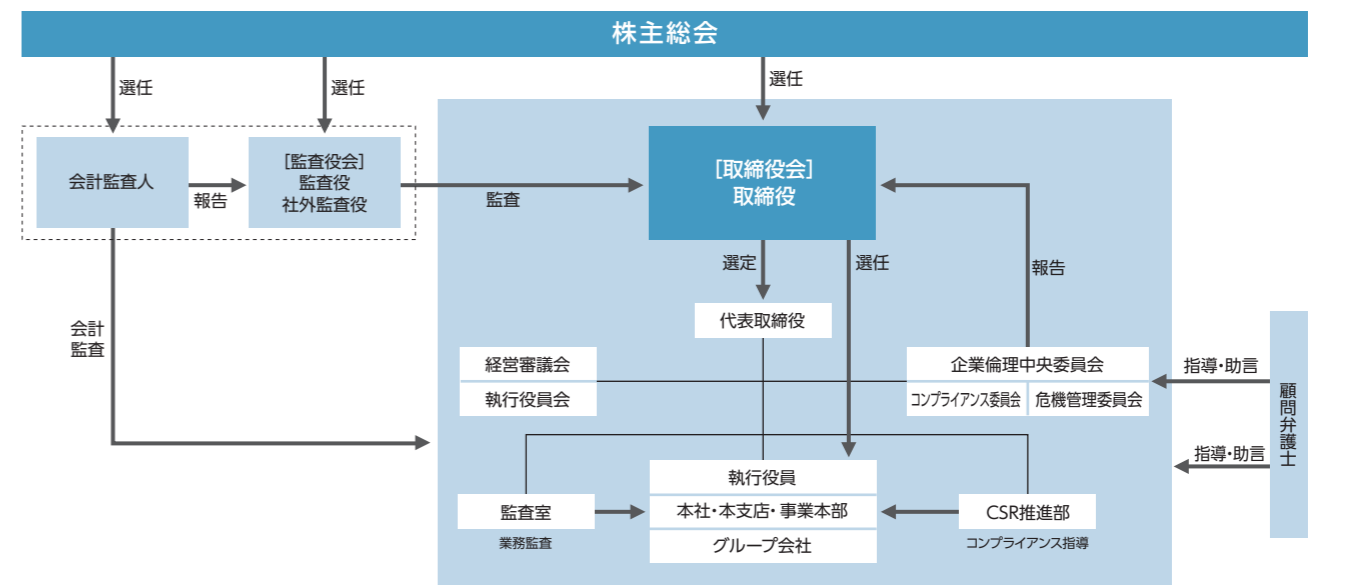
● 会計監査人

会社法及び金融商品取引法の会計監査について、独立監査人としての公正・不偏的立場から監査を受けています。

● 顧問弁護士

複数の法律事務所と顧問契約を締結し、必要に応じて指導・助言を受けています。

コーポレート・ガバナンス体制図



目指すべき北極星を見つめ直し、 竹中にしかできないまちづくりで時代をリードする トレンドセッターとしての活躍を期待

一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 客員教授
名和 高司氏

1957年熊本県生まれ。東京大学法学部卒、ハーバード・ビジネス・スクール卒業（ペーカースカラー授与）。三菱商事に約10年間勤務。2010年まで、マッキンゼーのディレクターとして約20年間、コンサルティングに従事。日本、アジア、アメリカなどで、多様な業界において、次世代成長戦略、全社構造改革などのプロジェクトに幅広く従事する。著書に「CSV経営戦略」「成長企業法則～世界トップ100社にみる21世紀型経営のセオリー」「コンサルを超える問題解決と価値創造の全技法」「企業変革の教科書」など。



大切なことは“竹中らしさ”を 伝わる想いで表現すること

新たに策定された「サステナブル社会に向けた2020-2022年活動計画」は、大変良く整理されています。特に重要課題（マテリアリティ）を複数の領域に分類し、基盤としての領域Gを置き、さらに企業と社会にとって最重要課題である領域Aの外側に、領域B・Cを設定している点は極めて先進的です。（P13）
昨年もお話しましたが、ステークホルダーにとって現時点では重要度が低くても、自社にとって重要と位置付ける領域Bをしっかりと見極め、そこにある自社の“こだわり”や“らしさ”を共感の軸としてより多くの人の心に響かせることで、いずれは両者にとって重要な領域へと進化します。
そうした点から領域Bにある重要課題のKPIを考察すると、もっと“竹中らしさ”が打ち出された方が良いのではないかと感じました。本レポートは非常によくできています。一方で、いろんな要素が盛り込まれているため、竹中にしかできないことは何か、そしてそれに対する強い想いは何か、という主張が足りないように思います。
竹中工務店は、他のゼネコンとは一線を画す存在だと思えます。重要課題（マテリアリティ）の特定は、今年で終わりではないはずなので、その違いを、「ワクワク感」「ならでは感」「できる感」の3点において、もっと突き抜けた主張をすることで、既存の枠に囚われない、皆さんの自由な発想とチャレンジ精神が、さらに見えるようになることを期待します。

アウトカムを発信し、 SDGs以外に独自の18番目のカードを持つこと

KPIについても、アウトプット（結果）だけでは、それで社会が変わったとは言えません。皆さんは今後、どういった社会を作りたいのか、そのためにどう主動し、あるいは関わっていくかとしているのか、因果関係は難しいですが、それらをアウトカム（成果）として強く発信していただきたい。
また、SDGsも17項目の目標に対し、本業を通じてどのような貢献ができるかをしっかりと見極めることはもちろん大切なこと

ですが、自社ならではの提供価値があるはず。例えばマトリクスの領域Bに一石を投じるような何かを設定し、それに思いきり取り組まれる方が“竹中らしさ”を打ち出すことができ、17項目に相乗効果を持たせるような独自の18番目のカードにもなり得るのではないのでしょうか。

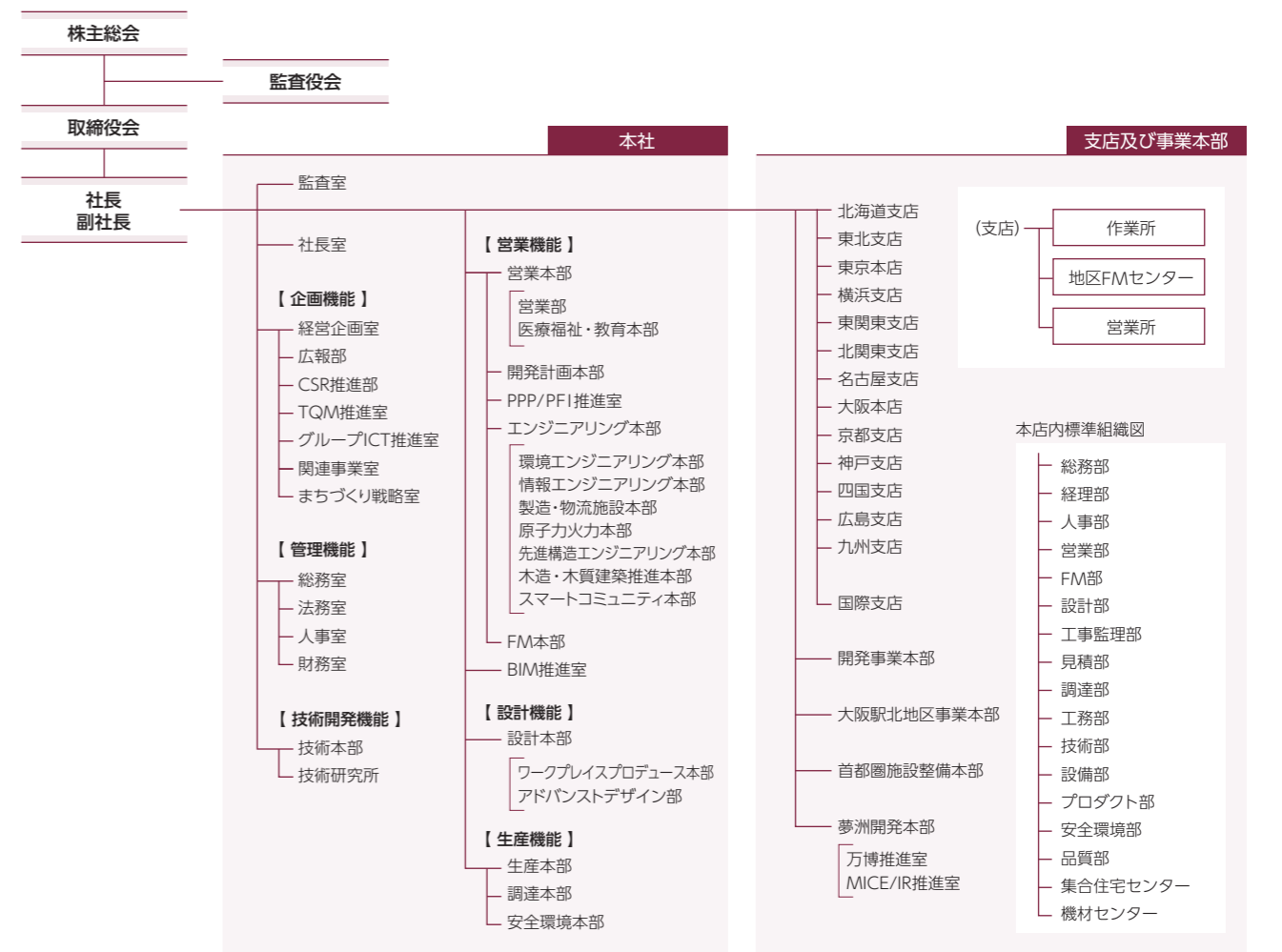
“竹中らしさ”で「人と自然が融合する2050年の社会」 を描き出すこと

環境における2050年ビジョンを設定されている企業はいくつもあります。しかし、2050年の企業のなりたい姿、ありたい姿というのは環境に限られた話ではありません。環境に寄り添うだけでなく、人と自然との融合をどのように創り出すのか、環境以外の側面をもっと膨らませ、竹中にしかできない2050年のまちづくりをもっと語っていただきたいと思います。
例えば、実証実験などを通じた「MACHIInnovation」の取り組みは、大変インパクトがあって素晴らしい。そこに2050年のまちづくりの視点が加われば、更なる広がりやくつろぎ、面白みを感じられるスケール感がアップされるのではないのでしょうか。AIやIoTを活用したDX（トランスフォーメーション）の取り組みについても、どのような成果をもたらすのか、その中で人がどのように動きどのように生きるのか、意識を高め行動を喚起することができます。従業員を例にとると、DXを活用することで従業員は「ブルシットジョブ」（定型作業）から開放され、よりクリエイティブな仕事に打ち込める「ワーク・イン・ライフ、ワーク・ライフ・ハーモニー」（働き甲斐）を目指すことができます。環境についても、負の側面の解消に限らず、ネットポジティブな内容を謳うことができるのではないのでしょうか。
これからも、「竹中が目指すものは何か」ということをストーリーとしてお話しする機会があると思います。そのストーリーには、是非、皆さんらしい言葉が盛り込まれた表現で「竹中が志す北極星（MTP: Massive Transformative Purpose）」を語っていただきたい。そして、そのストーリーに共感していただける竹中ファンをたくさん増やし、無形資産のブランドとして、企業価値を高めていっていただきたいと思います。

社名	株式会社竹中工務店
本社所在地	大阪市中央区本町4-1-13
資本金	500億円(2020年3月現在)
建設業許可番号	国土交通大臣許可(特-1、般-1)第2744号
従業員数	7,630名(グループ全体13,355名) (2020年1月現在)
グループ会社	子会社51社、関連会社15社、その他関係会社1社
資格者数	1級建築士 …………… 2,421 1級建築施工管理技士 …………… 2,307 技術士 …………… 184 博士 …………… 116 (2020年1月現在)

事業内容	1.建築工事及び土木工事に関する請負、設計及び監理 2.建設工事、地域開発、都市開発、海洋開発、宇宙開発、エネルギー供給及び環境整備等のプロジェクトに関する調査、研究、測量、企画、評価、診断等のエンジニアリング及びマネジメント 3.土地の造成並びに住宅の建設 4.不動産の売買、賃貸、仲介、斡旋、保守、管理及び鑑定並びに不動産投資に関するマネジメント 他
取引銀行	三菱UFJ銀行 三井住友銀行 みずほ銀行 りそな銀行 三菱UFJ信託銀行 三井住友信託銀行 他

組織図 (2020年4月1日付)



損益計算書・貸借対照表(連結)

(百万円)

	第78期 2015	第79期 2016	第80期 2017	第81期 2018	第82期 2019
受注高	1,295,029	1,291,682	1,391,442	1,397,818	1,419,121
売上高	1,284,362	1,216,570	1,295,951	1,353,627	1,352,064
営業利益	59,883	91,367	107,988	85,063	80,235
営業利益率(%)	4.7	7.5	8.3	6.3	5.9
経常利益	68,666	93,572	115,304	93,977	89,502
親会社株主に帰属する 当期純利益	44,140	61,432	75,762	63,638	68,918
純資産	521,011	566,470	652,033	671,189	762,642
総資産	1,342,971	1,318,055	1,450,191	1,468,850	1,519,771

その他の財務データ(連結)

(百万円)

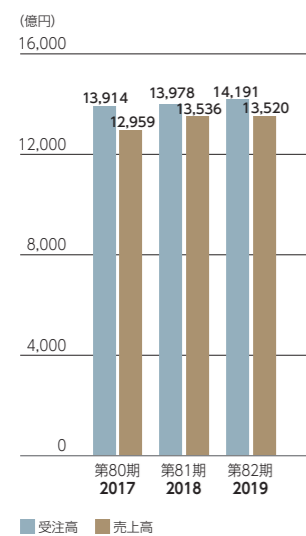
	第78期 2015	第79期 2016	第80期 2017	第81期 2018	第82期 2019
営業活動によるキャッシュフロー	40,032	87,883	88,476	107,719	△45,512
投資活動によるキャッシュフロー	△20,119	△48,695	△42,847	△40,772	△15,448
財務活動によるキャッシュフロー	2,415	△147	△14,235	△32,662	△14,509
研究開発費(億円)	62	70	77	84	93
設備投資(億円)	253	623	565	270	417
自己資本利益率(ROE)(%)	9.0	11.4	12.6	9.7	9.7

事業別売上高(連結)

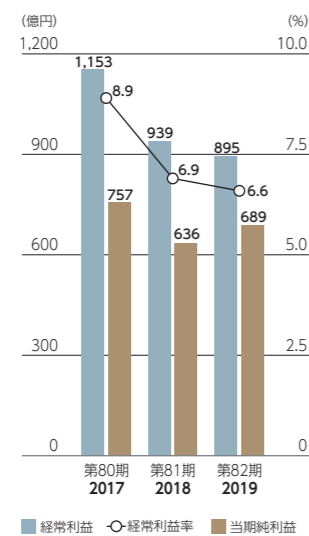
(百万円)

	第78期 2015	第79期 2016	第80期 2017	第81期 2018	第82期 2019
建設事業	1,188,308	1,104,999	1,193,475	1,241,868	1,241,923
開発事業	46,743	59,868	49,653	59,045	54,448
その他	49,309	51,703	52,822	52,713	55,692

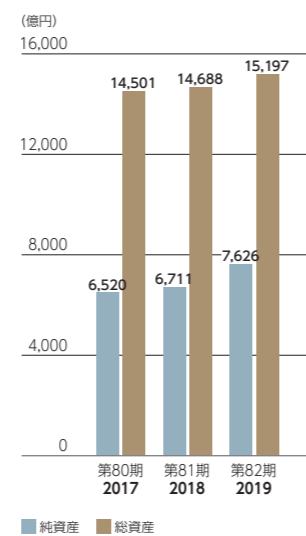
受注高/売上高(連結)



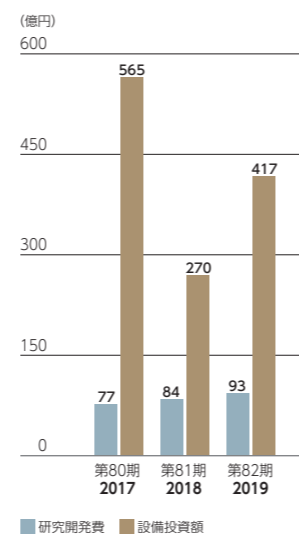
経常利益・経常利益率/
親会社株主に帰属する当期純利益(連結)



純資産/総資産(連結)



研究開発費/設備投資額(連結)



地域別売上高(連結)

(百万円)

	第78期 2015	第79期 2016	第80期 2017	第81期 2018	第82期 2019
日本	1,090,954	1,043,880	1,128,429	1,180,889	1,198,630
アジア	134,923	117,939	91,847	87,339	74,534
欧州	27,783	26,114	46,353	52,678	48,315
北米	30,701	28,636	29,320	32,719	30,584
その他	—	—	—	—	—

非財務データ(単体)

	第78期 2015	第79期 2016	第80期 2017	第81期 2018	第82期 2019
従業員数(人) (連結)	7,195 (12,328)	7,307 (12,592)	7,400 (12,982)	7,500 (13,042)	7,630 (13,355)
従業員平均年齢(歳)	44.4	44.3	44.0	44.0	44.0
平均勤続年数(年)	19.8	19.6	19.2	19.1	17.1
女性役付職人数(人)	78	86	100	121	126
度数率 (休業4日以上災害)*1	0.57	0.41	0.54	0.56	0.54
施工時CO ₂ 排出量 原単位(t/億円)*2	10.6	10.5	10.0	10.4	10.3
建設廃棄物リサイクル率 (容量%)*3	93.3	95.7	94.7	91.6	92.0
CASBEE S・Aランク プロジェクト件数比率(%)*4	52.0	67.1	77.3	85.7	89.2

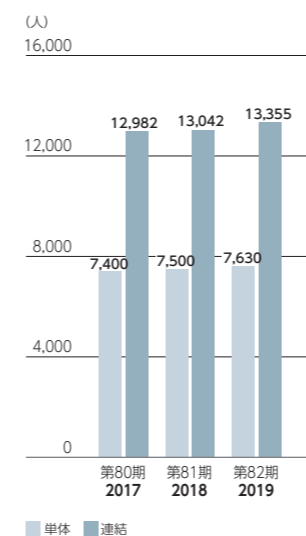
*1 100万延労働時間あたりの休業4日以上労働災害による死傷者数の割合。(1人親方等を含む)

*2 施工高あたり。

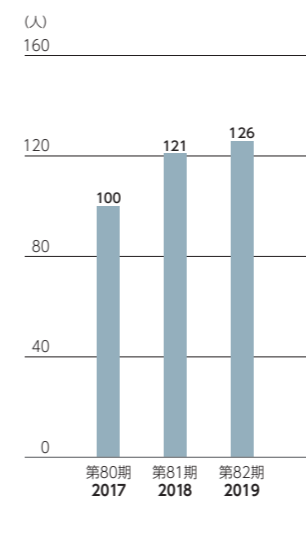
*3 建設汚泥、特別管理廃棄物は含まない。

*4 Sランク及びAランクプロジェクトの合計。対象は当社設計プロジェクト。

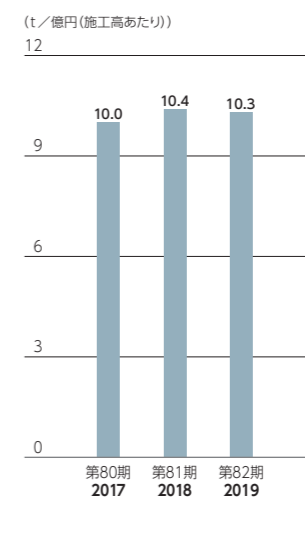
従業員数(単体・連結)



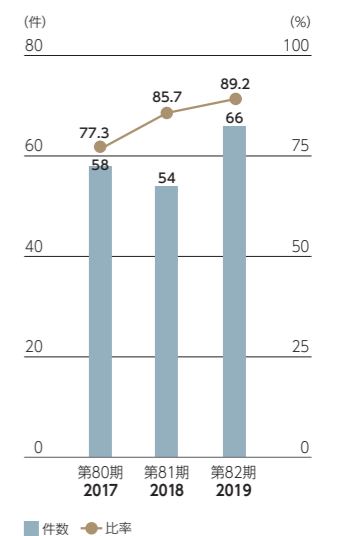
女性役付職人数(単体)



施工時CO₂排出量原単位(単体)



CASBEE S・Aランク
PJ件数/比率(単体)



想いをかたちに 未来へつなぐ



株式会社 竹中工務店

本 社	大阪市中央区本町4-1-13	〒541-0053	06-6252-1201
北海道支店	札幌市中央区大通西4-1	〒060-0042	011-261-2261
東北支店	仙台市青葉区国分町3-4-33	〒980-0803	022-262-1711
東京本店	東京都江東区新砂1-1-1	〒136-0075	03-6810-5000
横浜支店	横浜市西区花咲町6-145	〒220-0022	045-321-1261
東関東支店	千葉市中央区中央港1-16-1	〒260-0024	043-242-0525
北関東支店	さいたま市大宮区桜木町1-9-6	〒330-0854	048-647-4471
名古屋支店	名古屋市中区錦2-2-13	〒460-8633	052-211-2111
大阪本店	大阪市中央区本町4-1-13	〒541-0053	06-6252-1201
京都支店	京都市中京区壬生賀陽御所町3-1	〒604-8811	075-801-2131
神戸支店	神戸市中央区磯上通7-1-8	〒651-0086	078-265-3300
四国支店	高松市西内町12-11	〒760-0022	087-851-1175
広島支店	広島市中区橋本町10-10	〒730-0015	082-212-0111
九州支店	福岡市中央区天神4-2-20	〒810-0001	092-711-1211
国際支店	東京都江東区新砂1-1-1	〒136-0075	03-6810-5000
開発事業本部	東京都江東区南砂2-5-14	〒136-0076	03-6810-5000
竹中技術研究所	千葉県印西市大塚1-5-1	〒270-1395	0476-47-1700

<https://www.takenaka.co.jp>

